

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・著わめで高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用・ICT活用 小項目「はぐくみたいか」 ・言語活用 ・ICT活用 ・読解力リテラシー ・科学の甲子園 ・英語運用能力 ・その他		校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内726 校外112	校内650 校外100	校内644 校外89	校内 ●課題研究 中間発表 100 ●課題研究 最終発表 102 ●特報1での発表 ●即典型英語ディベート予選会4 (12人) 練習会12 (18人) ●3年英語表現スピーチ発表 313人 ●校内留学での発表 (80人) 校外 ●大阪サイエンス1次 80 (10人) 2次 4 (8人) ●科学の甲子園 1 (6人) ●即典型英語ディベート関西交流大会 4 (7人) ●即典型英語ディベート全国大会 3 (3人) ●GLHS合同発表会 1 (1人) ●WWL国際会議 1 (1人)	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	90.0%	90.0%	85.3%	校内留学アンケート「人前で発表することに抵抗が少なくなりましたか」 肯定的回答率 ⇒ 85.3%	B	継続	学内留学や英語でのディベート活動により、高い英語運用能力の維持・向上が期待でき、大変評価できる。一方で、課題研究の充実がみられるが、学校内外での発表活動の実績、生徒の肯定的評価の下落については、その要因を分析することも必要と思われる。	AA		
				②英語運用能力	継続	学内留学講座の実施	参加者数	80人	80人	80人	1, 2年生 ビジネス講座 (20人)、心理学講座 (20人)、天文学講座 (20人)、環境学講座 (20人)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.0%	95.0%	91.9%	学内留学アンケート「人前で発表することに抵抗が少なくなり了吗」と及び「英語によるコミュニケーション能力を高めたいと思うようになったの肯定的回答率の平均」 ⇒ 91.9%			B	継続
				③英語運用能力	継続	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	540人	400人	720人	即典型英語ディベートデモンストレーション 1年生 360人 留学生による発表 1年生 360人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.0%	95.0%	93.3%	即典型英語ディベートデモンストレーション 肯定的回答率 ⇒ 93.3%			A	継続
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力 小項目「はぐくみたいか」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他		④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計 (一日交流は含まない)	4人	2人	10人	渡航受入 ●イタリア 1人 (5か月) アメリカ・シアトル近郊 ケントレイク高校訪問 3人 デンマーク EB校訪問 6人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	96.1%	95.0%	92.6%	留学生1人を実施した北野高校での異文化交流に対する肯定的回答率 ⇒ 100% 1年生対象の留学生の受け入れに対する肯定的回答率 ⇒ 92.6%	A	継続	留学生の受け入れやチームビルディング講座、部活動を通して、多様な価値観に触れることができ、豊かな感性を育むことにつながっている。これら取組が生徒の発言にどのような影響を与えているかを振り返りながら取組を継続していただきたい。	AA
				⑤共感性・協働性	継続	チームビルディング講座の実施	参加者数	320人	320人	360人	1年生 スタートアップ研修でチームビルディング講座を実施	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	97.7%	95.0%	91.3%	チームビルディング講座における生徒の肯定的回答率 ⇒ 91.3%	B	継続		
				⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	104%	100%	108%	加入人数 (3学年計) 運動部692人、文化部388人 合計 1080人 加入率108%	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	97.5%	95.0%	95.4%	「クラブ活動はあなたにとってプラスになっていますか」に対する肯定的回答率 95.4%	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志を育む 小項目「はぐくみたいか」 ・進路意識 ・高い志 ・その他		⑦高い志を育む	継続	各界リーダーによる講演会や指導の実施	講演の回数及び指導回数	講演22回 指導312回	講演20回 指導200回	講演20回 指導289回	●知的世界への冒険 講演7回 指導7回 ●学部学科ガイダンス 講演10回 指導10回 ●キャリアガイダンス 講演1回 ●即典型英語ディベート講演1回 指導2回 ●課題研究講演会 講演1回 ●課題研究中間発表会 指導100回 ●課題研究最終発表会 指導102回 ●課題研究各講座での指導 64回 ●生物の授業の一環としての指導 4回	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.2%	95.0%	99.5%	知的世界への冒険 100% キャリアガイダンス 100% 学部学科ガイダンス 98.5%	A	継続	多くの生徒が将来社会貢献を考えており、各界のリーダーによる講演会や指導、若手研究者や社会人によるガイダンス等の取組が、生徒の意識と融合し、高い満足度を示しているのではないかと、生徒の関心の深さが学問の世界に結びつくことがないよう、今後も取組を充実していただきたい。	AA
				⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	100%	●キャリアガイダンス (1年生対象) ●学部学科ガイダンス (2年生対象)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.1%	95.0%	99.3%	キャリアガイダンス 100% 学部学科ガイダンス 98.5%	A	継続		
				⑨高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	161人	160人	231人	●阪大キャンパスツアー 78人 ●京大キャンパスガイド 108人 ●京都大学農学部 電子顕微鏡実習 1年約20人 ●科学の甲子園 7人 ●大阪サイエンス1次 10人 2次 8人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	100.0%	100.0%	97.0%	京大キャンパスガイド 97.0%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上 小項目「はぐくみたいか」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他		⑩授業力向上	継続	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	96.7%	95%	93.3%	本校教職員で授業見学を行った割合 93.3%	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	96.9%	95.0%	94.9%	学校教育自己診断 (生徒対象) 「授業は、興味深く、満足できるものである」の肯定的回答率 ⇒ 94.9%	A	継続	「全ての授業を探究型で」という目標のもと、公開授業や互見授業等を通して、教員の指導力向上に取り組みたいことは評価できる。今後は、教科会等で教材や指導法を共有するなど、引き続き、組織的に指導力の向上に努めていただきたい。	A
			⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	61回	60回	42回	本校にて 公開研究授業実施 18回 (岡崎×2、高木×1、黒田×1、浜辺×1、奥井×1、木島×1、寺尾×1、鈴江×1、濱田×1、武田×3、小松×1、園里×2、後藤幹×1、ケビン×1) 他校へ 公開研究授業参加 24回 (岡崎×3、大川×1、田丸×1、野崎×2、村上×1、山中×1、古平×1、後藤幹×2、徳丸×3、園里×7、福本×2)	B	当該アンケートにおける参加教員の肯定回答率	100.0%	95.0%	100.0%	聞き取り調査 100%	A	継続			
			⑫授業力・指導力の向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	1112人	1000人	855人	保護者参観参加者 (前期) 1年 251人 2年 123人 3年 111人 計 485人 (後期) 1年 154人 2年 85人 3年 118人 計 357人 他校からの 学校訪問 13名 愛知県立旭丘高等学校 4 茨城県立竹園高等学校 2 宮城県西宮第一高等学校 3 滋賀県立彦根高等学校 4	B	当該アンケートにおける参加者の肯定回答率	99.3%	95.0%	99.40%	保護者の公開授業アンケートにおける肯定的回答率 ⇒ 6月 99.4% 11月 99.4%	A	継続			
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学の回数	2回	5回	1回	・本校課題研究最終発表会へ行くこの花高等学校から教員の見学 (4人)	C	参加満足度 (4段階)	4.0	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒ 4.0	A	継続	本校の課題研究発表会への他校からの参加が1回に留まるなど、他校への普及という点について、次年度さらなる充実をめざしていただきたい。	A			
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施回数	33回	30回	30回	本校にて 公開研究授業実施 15回 (岡崎×2、高木×1、黒田×1、浜辺×1、奥井×1、木島×1、寺尾×1、鈴江×1、濱田×1、武田×2、小松×1、園里×1、後藤幹×1) 他校へ 公開研究授業参加 15回 (岡崎×2、野崎×1、古平×1、後藤幹×1、園里×3)	A	参加満足度 (4段階)	4.0	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒ 4.0			A	継続	

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立北野高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価										
										コメント	評価									
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								学力調査における学力の伸長に関して、1年から2年、2年から3年においてわずかな低下に抑えられている。大学入学共通テストについては、5教科7科目の受験者の割合は非常に高く、結果についても前年度実績及び目標値を上回っており大変評価できる。	AAA							
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	93.8%	95.0%	99.70%	生徒数 313人 受験者数 312名	A	継続											
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率の平均	79.1%	80.0%	81.40%	文系 736.4/900 理系 731.7/900	A	継続											
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	10件	10件	10件	日本天文学ジュニアセッション 3 日本人類学会 ポスター発表 2 日本心理学会 プレゼンバトル 1 プリマーテス研究会 4	A	継続	課題研究の外部での発表が前年度より分野も本数も減少している。コンクールやコンテストを含め、積極的な参加を期待したい。	B									
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①1人 ②8人	①3人 ②7人	①6人 ②2人	・科学の甲子園 1（6人） ・日本情報オリンピック 予選 敢闘賞（2人）	B	継続											
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験の受験 ①受験者数 ②取得スコア（級） (1)英検2級以上相当 (2)英検準1級相当	①104 ②(1)21 (2)42	①100 ②(1)20 (2)40	①50 ②(1)22 (2)13	TOFEL Bridge[1] (1)1 TOEIC[5] (1)5 (2)2 英検 1級・準1級 [38] (1)11 (2)11 英検 2級[6] (1)5	C	継続	外部検定試験の受験者数が前年度実績および目標値を下回ったことは残念。今後の英語運用能力向上の取組みに期待したい。	-									
												⑳スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	194人	200人	219人	A	継続		
	IX. 進学実績	㉑進学実績	⑳進学実績	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	142人	150人	157人	東大20人、京大90人、阪大47人	A	継続	国公立大学現役進学者数は前年度実績及び目標値を下回ったものの、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数は前年度実績及び目標値を上回っており評価できる。引き続き府のトップランナーとして飛躍することを期待する。	AAA								
													㉒国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	173人	180人	167人	国立142人、公立25人	C	継続
													㉓海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	0人	C	継続	
													総合評価		学校独自の取組みについては、英語運用能力を育成をめざした「学内留学」や「英語でのディベート活動」の実施や、豊かな感性の育成をめざした「留学生の受け入れ」の実施、さらには、高い志の育成をめざした「各界のリーダーによる講演会」の実施など、優れた取組みを行った。また、スーパーグローバル大学（タイプA）及びグローバルサイエンスキャンパス等への合格者を前年度より増加させるなど、非常に高い成果をあげた。					

総合評価

学校独自の取組みについては、英語運用能力を育成をめざした「学内留学」や「英語でのディベート活動」の実施や、豊かな感性の育成をめざした「留学生の受け入れ」の実施、さらには、高い志の育成をめざした「各界のリーダーによる講演会」の実施など、優れた取組みを行った。また、スーパーグローバル大学（タイプA）及びグローバルサイエンスキャンパス等への合格者を前年度より増加させるなど、非常に高い成果をあげた。

AA

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価																			
																		コメント	評価																		
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	課題研究成果発表会の実施（豊高プレゼンテーション）	校内成果発表会の発表件数	理科口頭発表48本 文科口頭発表31本 能勢分校口頭発表5本 1年91本	理科口頭発表45本 文科口頭発表35本 能勢分校口頭発表3本 1年90本	理科口頭発表48本 文科口頭発表37本 能勢分校口頭発表10本 1年98本	課題研究中間発表及び豊高プレゼンにおける班数	A	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	90%	90%	90%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	B	継続																				
																				②英語運用能力 科学的リテラシー 言語活用能力	継続	各種コンテスト及び英語即典型ディベート活動への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿（西日本）等地方大会参加数 ③ディベート活動参加回数	①9回 ②5回 ③116回	①10回 ②5回 ③100回	①8回 ②5回 ③75回	①SSH生徒研究発表会1組 JICA「国際協力作文コンクール」 全国高校生フォーラムマスコエスタ（全国数学生徒研究発表会） 情報オリンピック 生物オリンピック パテントコンテスト 第8回ははだけ未来の吉岡奨学生賞 ②大阪サイエンスステイ 第一部、第二部 科学の甲子園 生徒生物研究発表会 GLHS合同研究発表会 ③ディベートセミナー 6回 ディベート体験 9回 ディベートチーム 60回	B	英語運用能力に自信がつけられたと回答した参加生徒の割合	92%	90%	91%	即典型ディベートが終了後にアンケートを実施	B	継続	課題研究の仕組みや内容は整っているが、物事を深く考える機会を充実させるためにも、課題研究の意義や意味を明確にすることが必要と思われる。課題研究や英語運用能力向上に向けたディベート活動、リスニングセミナーの取組み実績が概ね目標を達成しており、評価できる。	A
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④協調性・共感力	継続	海外フィールドワークの実施	参加者数	71名	60名	118名	SYSTEMIC：3名 英国語学研修：41名 GLHS米国研修3名 国内留学P：36名 今後3月にSSHシンガポール研修(20名)、SGHベトナム研修(15名)を予定	A	参加を通して、異文化の人とコミュニケーションをとったり、意見を発表したりする力が高まったと回答した参加生徒の割合	96%	95%	96%	プログラム終了後にアンケート実施	B	継続	海外フィールドワークの参加者数の増加などから、国際交流のニーズの高さが伺え、参加者の満足度も高い。国際性や多様性への対応について大変評価できる。今後も国際交流の充実にも努めてもらいたい。	A																		
																				⑤違いを認め共に生きる力	継続	大阪大学の留学生との交流会の実施	参加者数	1年生360名	1年生360名	1年生360名	B	異文化について理解を深めることができたという回答した参加生徒の割合	98%	95%	96%	交流会終了後に理解を踏めるアンケートを実施	B	継続			
																																			⑥高い志をはぐくむ 規範意識	継続	地域交流活動ボランティア活動の推進
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志をはぐくむ	継続	土曜セミナー等の実施	イノベーションセミナー(6回) 英語ディベートセミナー等の合計実施回数	26回	20回	21回	イノベセミナー：6回 英語ディベートセミナー6回 寺子屋：3回 ディベートチーム：6回	B	授業以外の体験ができた・学びに対する意欲が増したと回答した参加生徒の割合(新規)	90%	90%	92%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続	卒業生をはじめ講演会の実績が大きく伸びており大変評価できる。こうした実績が生徒にどのような変容をもたらしているのかを分析しながら取組みのさらなる充実にも努めてもらいたい。	A																		
																				⑧高い志をはぐくむ	充実	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	77回	60回	157回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	97%	95%	97%		A	継続			
																																			⑨教科指導力の向上	継続	①教科の垣根を超えた相互の授業見学 ②授業改善に向けた教員研修の実施
	⑩課題研究力向上	充実	課題研究における評価方法の検討	・評価のループリック検討会議の回数を年間に2回実施	20回	15回	102回	A	ループリック作成を通じて指導力が向上したと答える教員の割合	100.0%	100.0%	100%	課題研究委員会に参加した教員アンケートの肯定的回答率	A	継続																						
IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩課題研究力向上	継続	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを公開 ②他校科学系部活動との交流	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを観覧、視聴した学校数及び生徒数 ②他校科学系部活動との交流回数	9校44名4回	3校10名3回	①3校35名 ②1回	①2月8日豊高プレゼン能勢分校10本、千里高校1本が発表 阪大講演会に能勢分校生徒5名が参加 ②豊中サイエンスコンパスによる豊中市内の公立高校との連携	B	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	3.5		B	継続	クリティカルシンキング研修や英語互見授業などの実施により、多様なテーマでGLHS以外の教員の指導力向上に向けた取組みを実施したことは評価でき、今後とも取組みを継続してもらいたい。	B																			
																			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	教員研修の実施	教員研修への参加教員数	37名	30名	31名	B	参加満足度（4段階）	3.3	3.3	3.3		B	継続				
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑭GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを公開 ②他校科学系部活動との交流	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを観覧、視聴した学校数及び生徒数 ②他校科学系部活動との交流回数	9校44名4回	3校10名3回	①3校35名 ②1回	B	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	3.5		B	継続																						
																⑭GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを公開 ②他校科学系部活動との交流	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを観覧、視聴した学校数及び生徒数 ②他校科学系部活動との交流回数	9校44名4回	3校10名3回	①3校35名 ②1回	B	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	3.5		B	継続							

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立豊中高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長について、2年から3年は維持できているものの1年から2年は伸び悩んでいる。その要因を分析し改善に努めてもらいたい。 大学入学共通テストについては、受験者の割合は目標値をわずかに下回ったが、5教科7科目の結果は前年度を上回り、学校の目標値も上回っており大いに評価できる。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	89.3%	90.0%	89.6%	文系115名、理系194名	B	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における 得点率80%以上の者の割合	13.6%	13.5%	16.3%	全体312名中720点以上51名	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学生TAによるルーブリック評価	3.6	3.6	3.7	理科3.7、文科3.6	A	継続	全国規模のコンクールやコンテストの入賞者数について、目標値を下回った。より多くの生徒が参加するような仕掛けを検討してもらいたい。	B	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	全国レベル 3グループ	全国レベル 5グループ	全国レベル 3グループ	「JICA国際協力作文コンクール」特別学校賞+佳作1件、「日本情報オリンピック」敢闘賞、「日本原子力文化財団 課題研究活動支援事業」採択校	B	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	CEFR B1レベルの生徒数	1年：15名 2年：28名 3年：92名	1年：15名 2年：30名 3年：95名	1年：290名 2年：311名 3年：304名	本校受験時に英検2級を取得済みの生徒数を含む	B	継続	CEFR B1レベルの生徒数が目標値を大きく上回っており評価できる。これらの生徒を今後も伸ばせるよう、取組みを充実させてほしい。	-	
				116名	120名	108名		B	継続			
	IX. 進学実績	㉑進学実績	進路希望達成率 (年度当初の進路希望達成率)	29.8%	30.0%	28.0%	現役大学進学希望者数 347名 現役国立大学進学者数 97名	B	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、前年度実績及び目標値を下回っているものの、国公立大学現役進学者数は前年度実績及び目標値を上回っており評価できる。	AAA	
				136名	130名	144名		A	継続			
				1名	1名	1名		B	継続			
				136名	130名	144名		A	継続			
	総合評価			課題研究の充実や英語運用能力の育成に向けた「ディベート活動」や「リスニングセミナー」、協調性・共感力の育成に向けた「海外フィールドワーク」、さらには、高い志の育成をめざした「卒業生等による講演会」等、効果的な取組みを行った。また、国公立大学現役進学者数が増加するなど進学実績において非常に高い成果をあげた。							A	

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評議会議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-3

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評議会議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力 ②言語活用力・KT活用力 ③基礎学力の向上	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	6回 /講座	6回 /講座	6回 /講座	2年「ディベートディスカッションII」の授業にて、「日本政府はSNSを検閲すべきか」「死刑制度は廃止されるべきか」といった社会的なテーマについてディベートを実施。論理的思考力を育成した。	B	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	91%	80%	94%	目標を大きく上回った	A	継続	ディベートやプレゼンテーションなど多様な学習活動を取り入れることで、生徒自らの成長を感じることができており、評価できる。	A
				A:「保健」の授業でのプレゼンテーション B:「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A:1回 /生徒 B:6回	A:1回 /生徒 B:10回	A:1回 /生徒 B:15回	A:「環境問題」について、6人1班を基本とし、調べ学習をしたうえでグループ発表を行った。 B:唐泊野外行事に向け、業者を交えて企画・立案を行った。	A	【アンケートによる生徒の評価】 A:授業を通じて自らの成長を実感できた B:1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	A:85% B:90%	90%	A:90% B:92%	目標を上回った	A	継続			
				進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の実施	図書館の開館日数の確保	182日	210日	205日	概ね目標とおりの日数会館し、生徒の利用の機会を確保した。	B	A:生徒に対する図書館蔵書の貸出冊数 B:1.2年生1人当たりの読書冊数	A:1963冊 B:9.2冊/1人	A:3000冊 B:15冊/1人	A:1953冊 B:10冊/1人	A:昨年度とほぼ同数であった B:昨年度は上回ったが目標には届かなかった。	C	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④共感力・違いを認め共に生きる力 ⑤課題発見力・紛争を解決する力 ⑥健康・体力をはぐくむ	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様な受容の取組み	(生徒主体の人権行事に係る)生徒人権委員会の実施回数	3年:8回 2年:8回 1年:10回	各学年5回	3年:5回 2年:21回 1年:9回	3年「同和問題について考える」 2年「反戦平和と人権」 1年「SNS講習会」	A	【アンケートによる生徒の評価】 さまざまな取組みを通して、深く自国や自分自身を見つめ直し、広い視野をもって積極的に他者に関わろうとする姿勢をはぐくむことができた	96%	90%	93%	目標を上回った	A	継続	人権委員会や文化祭・体育祭の企画を生徒主体で実行するなど、「自主自律」を具現化する取組みが構築されているとともに、生徒の満足度も高い水準を維持しており、大変評価できる。	AA
				生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	実施回数	80回	50回	82回	生徒議会:20回 その他の委員会:62回	A	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組みは充実したものになっている	97%	90%	93%	体育祭:97% 文化祭:88%	A	継続		
				リーダー研修Ⅲ(クラブサポート事業)の実施	A:実施回数 B:参加クラブ数	A:5回 B:36	A:5回 B:30	A:5回 B:34	外部講師を招いて以下の講習を実施した。 熱中症予防 テーピング講習 トレーニング講習	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	95%	90%	99%	目標を大きく上回った	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志・規範意識をはぐくむ ⑧高い志・共生力をはぐくむ ⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	リーダー研修Ⅰ(リーダーとしての資質の獲得)の実施	実施回数	12回	10回	15回	真のリーダーになるために、魅力的なリーダーになるために、信頼されるリーダーに必要な2つのスキル	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	95%	90%	99%	目標を大きく上回った	A	継続	ボランティア活動の取組みについては、生徒のニーズや、様々な制約を踏まえ、取組みや目標設定の再検討を行うことも考えらえる。一方で、生徒の高い志を育むために、卒業生という財産を活用することにより、生徒自身の世界観を拓き、よりよい未来を築き上げていく機会を創出させてもらいたい。	A
				ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	3.5	4.0	2.7	地域のフェアにおけるボランティアスタッフとしての活動や地域清掃等、地域と連携しながら地域の活性化に寄与した。	C	生徒のべ参加人数	836名	1000名	338名	Googleフォームにより調査を行ったことで、回答数が半減した。	C	継続		
				学問発見講座・卒業生講座の実施	実施講座数・実施回数	24講座 /年2回	20講座 /年2回	24講座 /年2回	学問発見講座:14講座 卒業生講座:10講座	A	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった。	96%	90%	96%	学問発見講座:94% 卒業生講座:98%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩最先端の学びの研究 ⑪授業力向上 ⑫授業力向上	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組み	A:大学等と連携した取組みの回数 B:教科・科目の研究会等への参加回数	A:54回 B:34回	A:30回 B:30回	A:52回 B:36回	A:大学の教授等による講義に加え、京都大学の大学院生による探究活動への支援により、課題研究取組みが向上した。 B:研究会等に参加し、教科の知見を深め、校内で共有した。	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	87%	85%	88%	目標を上回った	A	継続	パディシステムを用いることに加え、「MJS(もっと授業を見ましよう)」「MKS(もっと気軽に見ましよう)」という方針の下、授業力向上に向けた組織的な取組みが展開されており、概ね目標値を上回っており、評価できる。こうした取組みが授業の質的改善にどのように影響しているのかを振り返りながら取組みを進めてもらいたい。	AA
				パディシステムを用いた互見授業(グループウェアソフトの利用を含む)の実施	教員1人あたりの実施回数	4.8回/人	3.0回/人	4.1回/人	互見授業が教員に浸透し、全教員が授業を他の教員に公開し、積極的に互見授業に参加するようになった。	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業は信頼できるので、来年もこの先生の授業を受けたい(後輩に受けさせたい)	91%	89%	91%	目標を上回った	A	継続		
				研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換の実施	実施回数	58回	40回	52回	昨年度以上に、研究授業及び教授方法の検討会を教員が自主的に実施するよう促すことができた。	A	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換に参加した教員のべ人数	102名	100名	82名	研究授業に加え、今年度より、教授方法の検討会を2回開催し、のべ30人以上を超える教員が参加した。	C	継続		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	課題研究発表会(オンライン開催を含む)へ他校生徒を招待	課題研究発表会(オンライン開催を含む)への招待回数	1回	2回	1回	招待を計画し、他校へも呼びかけを行った。	B	参加満足度(4段階)	0名	80%	0名	招待を計画し、他校へも呼びかけを行ったが、予定が合わず、他校生の参加には至らなかったが、本校生1年生が見学できる体制をとれ年度へのモデル獲得に成功した。	C	継続	質の高い課題研究活動のノウハウを是非他校に普及してもらいたい。招待の時期や手法、情報発信など見直し、他校に普及する機会を通して、自校の取組みの充実につながる機会にしてもらいたい。	A	
			課題研究の授業見学及び課題研究発表会(オンライン開催を含む)への他校の教員の参加	課題研究の授業見学及び課題研究発表会(オンライン開催を含む)に参加した教員数	4名	5名	4名	府外から複数の教員が視察に来られた。 ・静岡県立藤枝東高校3名 ・東京都立成瀬高校1名	B	参加満足度(4段階)	100%	80%	100%	広く門戸を開き地域の中学校を含む、他校に対して探究型の授業に関する見学の機会を提供できた。	A	継続			

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立茨木高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長については、2年から3年ではわずかな低下に抑えられているが、一方で、1年から2年の推移についてはその要因を分析し、改善に努めてもらいたい。5教科7科目受験者の得点率とともに前年度実績及び目標値を上回っているものの、大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合が前年度を下回った。その要因を分析し、さらなる高みをめざしてもらいたい。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	92%	92%	89%	ほぼ目標を達成した	B	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合得点率	75%	75%	76%	目標を上回った	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	多様なテーマを扱う生徒の課題研究講座数	21講座	22講座	22講座	目標を達成した	B	継続	コンクールやコンテストの成果について、前年度実績や目標値を上回ったが、課題研究活動の成果を、より多くの生徒が外部で発表できる機会の提供が望まれる。	C	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国essay contest等の入賞者数	6名	5名	14名	大阪府吹奏楽コンクール北摂地区大会_金賞、第11回ジュニア料理選手権_優秀賞、大阪府人権作文コンクール_最優秀賞、大阪府青少年読書感想文コンクール_入選ほか	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	①CEFR B2レベル以上保有者数（全学年）	①36名	①CEFR B2以上40名	①31名	資格試験をゴールとしない4技能習得に向けた授業は着々と進んでいる	C	継続	CEFR B2レベル以上保有者数、英検2級以上保有者数ともに、前年度実績及び目標値を下回った。次年度以降の取組みの充実を期待したい。	-	
			②実用英語技能検定2級以上保有者数（全学年）	②664名	②CEFRB1以上保有者830名	②615名						
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	168名	150名	126名	数値は目標に届かなかったが、志を高く持ち進路実現に向けて邁進している	C	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、東大・京大・阪大・神大の合格者数が、前年度実績及び目標値を下回った。この結果について要因を分析し、取組の充実を努めてもらいたい。	A	
		㉒進学実績	東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数	144名	120名	107名	数値は目標に届かなかったが、志を高く持ち進路実現に向けて邁進している	C	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	161名	-	121名		-	-			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	3名		A	継続			
	総合評価			生徒が主体となり、文化祭や体育祭、人権行事を実施するなど、生徒の「自主自律」を育む取組みが充実している。また、教員の授業力向上に向け、教員が授業を互見し、検証するなど、優れた取組みを実施している。また、生徒の学校生活に対して高い満足度を示していることに加え、大学入学共通テストにおいて得点率が前年度より増加するなどの成果をあげた。							A	

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立大手前高等学校

自己評価の基準	A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下	評価審議会 採否の基準	AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-4

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用・ICT活用 ②基礎学力の向上 ③英語運用能力	継続	校内成果発表会の実施 勉強合宿・補習・講習の実施 ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	校内成果発表会の発表人数	719人	722人	719名	1.2年在籍者全員	B	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②学校教育自己診断（関係項目の向上）	①74% ②生徒94% ③教職員96%	①75% ②生徒95% ③教職員95%	①76% ②生徒89% ③教職員96%	①スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト表現力の項目の平均値 ②R4「運営指導委員会理事より（第2回）」から指標変更⇒教員28、生徒9：ICT項目より	B	継続	目標値に達しなかったものの、大学入学共通テストの英語平均点の数値の向上は、英語運用能力の育成の成果として表れており、評価できる。引き続き、基礎学力や言語活用力の向上に向け、さらなる取組みの充実を期待したい。	A
						1070人	1075人	1075人	5教科7科目受験者全国平均の12.5%以上の者の割合	B	44%	45%	39%	大学入学共通テストの全国平均（河合塾発表の速報値）との対比（文系53人、理系69人）	B	充実			
						1070人	1075人	1075人	大学入学共通テスト英語平均点	B	136%	140%	139%	大学入学共通テスト英語筆記の全国平均（河合塾発表の速報値）61.81点に対する大手前の平均71.7点の比71.7/51.54=139%	B	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を大きく	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力 ⑤共感性・協働性 ⑥健康・体力を大きく	充実 継続 継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施 ①コーラス大会の開催 ②家庭科保育所実習の実施 クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	60名	①受入10 ②派遣43 ③交流180	①英国受入10 ②AUGL40 ③GLHS3 ④GSP60 交流120	①③英国交流（10+120） ②AUGL研修（40） ③GLHS（3人） ④サフランシスコ ⑤GSP（60人）	A	異文化について理解を深めることができた回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	参加生徒の満足度アンケートより	A	継続	海外研修やグローバルスタディプログラム等の国際交流が活発化しており生徒の多様な価値観の醸成に寄与しており、大変評価できる。こうした取組みの効果を分析しながら、さらなる取組みの充実にも努めてもらいたい。	A
						①ー ②362名	①1075名 ②360名	①1075名 ②360名	①全校在籍数 ②親学習「日本子育てアドバイザー協会」来校によりワークショップ実施	B	この学校で良かったと回答した生徒の割合	94%	95%	94%	学校教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合（H31に指標変更）	B	継続		
						①2回 ②360人	①2回 ②360人 ③720人	①4/6 ②7/18 ③20 ④2/9	①オリエン、文化部発表会 ②計画通り水泳訓練実施 ③計画通りマラソン大会実施	B	クラブ加入率	107%	100%	109%		A	継続		
	III. 高い志を大きく、進路実現をめざす	⑦社会貢献意識を高める ⑧規範意識 ⑨高い志を大きく	継続 充実 充実	ボランティア活動の推進 挨拶の励行時間を守るための取り組み 各界リーダーによる講演会の実施	ボランティア活動に参加する人数	110人	100人	136人	学校説明会（自治会60、S探30） 小中学生勉強会（46）	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	—	75%	89%	卒業生のアンケートより	A	継続	卒業生等の講演会の実績が目標値より大きく上回り大変評価できる。課題研究を深める過程で大学教員から学びのあり方や研究について学ぶことで生徒自らの考えを深化させることにつながるため、今後も充実させてもらいたい。	AA
						毎日	毎日	計画通り実施	全教員による5分前指導の実施 学年主任による登校指導 補習教員による下校指導	B	1年あたりの総遅刻者数	3081人	2773人	1872人	2021年 2495 2022年 2286	A	継続		
						77回	80回	100回	集中セミナー69講座 進路講演会、阪大研修1日10講座（2年全員）、京大研修1日（1年全員）、東京研修6講座、弁護士講演1日9講座	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	82%	85%	82%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト#28社会貢献意識の項目より	B	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上 ⑪授業指導力向上 ⑫課題研究指導力の向上	継続 継続 充実	民間教育産業と共同したスキルアップ研修 研究授業、授業参観等の実施 授業改善PJ実施（授業相互見学の実施） オール文理による全生徒への課題研究の指導の確立	①研修回数 ②研修参加者数	①15回 ②190人	①15回 ②190人	①15回 ②190人	模試分析会、共通テスト分析会 進路研修	B	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	86%	85%	83%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合 前年度数値87.8%を修正	B	継続	SGシステムは特徴ある取組で、教員の指導力向上につながっていると思われ、評価できる。今後、このシステムの成果と課題を共有することができれば、なお意義深いのではないか。	A
						44回	45回	46回	教員自主研修3、初任者等3、SGシステム（相互見学）40	B	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	85% (3.42)	3.45	3.46	後期授業アンケート集計	B	継続		
						①時間割内にて定例実施 ②生徒82% ③教職員78%	①定例実施 ②生徒80% ③教職員80%	①定例実施 ②生徒85% ③教職員76%	先生は教科書その他、役に立つプリントなどをうまく使っている回答した生徒の割合	83% (3.30)	3.35	3.32	今年度より4段階表示 後期授業アンケート質問5「先生は教科書その他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	B	継続				
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	充実 継続	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高生対象） 上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等の実施	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高生対象）等の各種企画の参加人数	338名	350名	855人	①107人（見学118） ②20人 その他： マスセミナー90人 勉強会360人 S探見学160人	A	参加満足度（4段階）	①3.6 ②3.8	①3.6 ②3.5 ③3.8	①3.61 ②3.8 ③3.84	①マスフェスタ発表者アンケート ②マスカンパ参加者アンケート ③プログラミング学習会アンケート	B	継続	マスフェスタの他、プログラミング学習会をはじめ、中学生も巻き込んだ取組を実施できていることは評価できる。他校の教員との意見交換等も活発化して自校の教員の指導力向上にもつなげてもらいたい。	A	
					58人	60人	103人	中学校教員見学69人 奈良県よりGLHS校へ英語授業見学32人	A	アンケートでの肯定的意見の割合	81%	3.6	100%	マスフェスタ引率者アンケートより（自由記述アンケートのため、肯定意見抽出）	A	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学入学共通テスト5教科7科目受験者全国平均の12.5%以上の者の割合が前年度実績、目標値を下回ったものの受験者については高い割合を維持しており大いに評価できる。学力調査の結果については1年から2年の推移について、原因を分析し改善に努めてもらいたい。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	91%	90%	89%	314/351人 7科目受験/実受験者数 (R4:313/345人)	B	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者全国平均の12.5%以上の者の割合	44%	45%	39%	122/314人	B	充実				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	全国規模での大会の発表本数（組数）	19人 (6組)	6組	3組	SSH全国発表会 5人（1組） マスフェスタ 11人（2組）	C	充実	全国規模での大会の発表者数が前年度実績、目標値を下回ったものの、全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数は前年度実績を上回っており大いに評価できる。次年度以降も引き続き参加者、入賞者が増加するよう努めてもらいたい。	AA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数 ①府レベル、②全国レベル	①8人 ②11人	9組	①19組 ②4組	①科学の甲子園3位6人、 学生科学賞2位（4人）、3位教育委員会賞 （2組6人） ①情報オリンピック敢闘賞13人、②情報オリ ンピック本戦1人、女性部門敢闘賞3人	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	GTECスコア690点（CEFR A2相当）以上 100%取得の維持	100%	100%	100%	外部試験でCEFR A2相当のスコアを取得できる力を持っている。	B	継続	CEFR A2相当以上を維持できているので、生徒がより高いレベルの英語運用能力を持てる仕組みを検討していただきたい。	-		
		IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	99人	125人	111人		B	継続	海外大学進学者数は目標値を下回ったものの、その他の項目は前年度実績を上回っており、大変評価できる。この要因を分析し、さらなる飛躍を期待する。	AAA	
	㉒進学実績		国公立大大学（現浪）進学率 （対象年の現浪国公立大学合格者数/対象年3年在籍数（平均して動向を把握）を国公立大大学（現浪）進学率として設定）	58%	65%	66.4%	239/360=0.664	B	継続				
	㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	124人	145人	141人	現役合格150人、進学141人	B	継続				
	㉔海外大学への進学		海外大学進学者数（1浪含む）	0人	2人	0人		C	継続				
	総合評価			卒業生による講演会の回数を大幅に増加するなど、高い志を育むための取組みを充実したことや、「スモールグループシステム」の導入により、教員の授業力向上を図る取組みを実施したことは高く評価できる。また、スーパーグローバル大学（タイプA）への進学者数や全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数が前年度より増加するなど、非常に高い成果をあげた。							AA		

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会 評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の真意が必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価).

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学入学共通テスト5教科7科目受験者の得点率80%以上の者の割合が前年度実績、目標値を下回ったものの受験者は昨年度同様の割合を維持しており評価できる。学力調査の結果については1年から2年の低下幅が大きくなっており、校内全体で原因を分析し改善に努めてもらいたい。	A
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	85.0% (300/353)	80%	84.9% (299/352)	在籍352名のうち338名が受験 受験338名のうち299名が900点受験	A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の得点率80%以上	45名 (15.1%)	15%	34名 (11.4%)	目標値に及ばなかった。	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	外部でのポスター、プレゼン発表数	67班 314名	15グループ	51班 215名	SSH生徒研究発表会(1班4名)、NAIST英語発表(4班18名)、日経STEAMシンポジウム2023(1班3名)、関西NBC B-hack2023(1班5名)、Meet the Kyodai Chemistry in Katsura Campus2023(1班4名)、OSD第1部(8班28名)、マフエスタ(4班20名)、OSD第2部(3班16名)、情報処理学会中高生情報コンテスト(1班3名)、電子情報通信学会(1班5名)、三國丘高校探究発表会(1班6名)、マイナビキャリア甲子園(1班6名)、中高生探究の集い(1班6名)、ものづくり・ことづくりコンテスト2023(2班9名)、なわて子ども食堂みんなで作るクリスマス(1班6名)、四條畷市市民文化祭(1班4名)、第8回BLユースカンファレンス(5班23名)、北河内サイエンスデイ(13班49名)	A	継続	発表数は前年度実績を下回ったものの校外での発表活動が充実しており評価できる。また、外部のコンクール・コンテスト入賞者数も高い値を維持しており、学校全体で探究活動の充実を努めていることは大変評価できる。次年度以降も維持されることを期待したい。	AAA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	外部のコンクール・コンテスト入賞者	32班160名	入賞30名	35班71名 *下線部は個人参加であるが、一人1班として班数に計上	物理チャレンジ2023(奨励賞1名)、関西NBC部門賞(1班5名)、科学の甲子園大阪府大会(1班6名総合第5位、実技部門第1位(サイエンステクノロジー賞))、OSD第2部(優秀賞・金賞1班8名、銀賞1班4名)、京都大阪マシントークセッション(奨励賞2名)、数学オリンピック(地区表彰1名)、情報オリンピック(敢闘賞17名)、ライオンズクラブ高校生弁論大会(入賞5名)、情報処理学会中高生情報コンテスト(奨励賞1班3名)、第8回BLユースカンファレンス(銀賞2班10名、銅賞2班9名)	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	各種英語外部検定試験においてCEFR ①B2レベル ②B1レベル	①40名 ②161名	①40名 ②200名	①68名 ②241名	英語科授業の新たな取組によりB2・B1ともに大幅に前値を上回った。	A	継続	CEFR B2・B1レベルの生徒数が前年度実績及び目標値を上回った。次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるように努めてもらいたい。	-		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数(1浪含む)	67名	90名	68名	出願者数は近年でも高い数値となったが、進学者数としては目標値を上回ることではできなかった。	B	継続	海外大学への進学者数は前年度実績、目標値を上回ったものの、その他の値は目標値を下回った、その要因を分析し、改善に努めてもらいたい。	B		
		㉒進学実績	難関3国公立大学(京大・阪大・神大)現役・浪人合格者数	63名	80名	59名	京都大学、大阪大学、神戸大学に最後までこだわり出願することができた。出願に関する進路指導の成果は出ている。	B	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	140名	150名	121名	国公立現役合格者は137名であり、目標値には届かなかった。	B	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数(1浪含む)	1名	1名	2名	76期生が1名 University of Alberta(Canada)に、 75期生が1名 University of Exeter(UK)に 進学予定	A	継続				

総合評価	生徒の志を育むため、飯盛セミナーや研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から直接学ぶ機会を設定していることや、教員の授業力の向上に向け、さまざまな研修を実施していることは高く評価できる。また、他校の生徒が参加できる北河内探究活動交流会や情報オリンピック公開講座の実施など、取組みの成果普及についても優れた取組みを行っている。また、外部のコンクール・コンテスト入賞者において高い値を維持するなど、非常に高い成果をあげた。	AA
------	---	----

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート1 府立高津高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・極めて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の成果が必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	評価審議会の評価																		
																コメント	評価																	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①学習方法の定着 読解力リテラシー	継続	①1年生学習合宿 ②自習室(月～木の夜8時まで)の開放	①参加生徒数 ②自習室の年間開放日数	①360名 ②99日	①360名 ②90日	①360名 ②93日	①4/25～4/27の2泊3日で実施。国語数学英語の学習、進路HR、チームビルディング等を実施。 ②定時退庁日の火曜日以外、20時まで視聴覚室・図書館等を開放。	A	①高校での学習方法が学ばれた等、有意義と回答した生徒の割合 ②自習室の1日当たりの平均利用人数	①98.9% ②40人	①95% ②60人	①100% ②40人(1月末)	①年度当初の実施により、学習への姿勢が身に付くと共に仲間づくりの機会の増加などとなっている。2種類の事情で家庭学習で学習できない生徒の重要な機能として機能している。	A	継続	AA																
																			②言語・ICT活用	①校内課題研究発表会 ②校内課題研究発表会、課題研究(LCⅢ)論文の作成	①参加生徒数 ②課題研究(LCⅢ)の論文数	①712人 ②130本	①700人 ②100本	①724人 ②110本	①令和6年2月2日実施 ②HPに110本を掲載	A	①課題研究の取組みが充実していたと回答した生徒の割合	82%	90%	実施予定	①大学教員等との連携を深め、専門家からのアドバイスを受ける体制を構築。2/2の校内課題研究発表大会では、漢字・文法・文法総合で全123班が発表。②3年生は110本の論文をHPに掲載。	課題研究を行う理念や意図が教員にも伝わっており、生徒にも明確に伝わっていることが伺え評価できる。3年間を見据え、1年での学習合宿、2年での本格的な課題研究活動、3年での論文作成といった系統的な取組みが、組織的に進められており、大変評価できる。	AA	
																			③英語通用能力	①英語コミュニケーション講座(KPIEC) ②1年生全員および発展コース(1・2年希望者) ③国内での宿泊研修 ④国際交流センター留学生との交流	参加生徒数	①397名 ②中止 ③35名	①1・2年400人 ②15人 ③20人	①1年基礎コース360名、1・2年発展コース53名 ②3月実施発表の発表者23名 ③GULS参加者23名	①基礎講座は1年生全員参加。発展コースは1・2年の希望者が参加。 ②3月発表発表者23名。コロナ禍後、海外渡航が可能な中で生徒のニーズに合わせた価格帯での企画を再構築。 ③18回実施(全20回)	A	それぞれの取組みを通して、興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①基礎95.5% ②100% ③90%	①95% ②90% ③90%	①基礎96.6% ②100% ③90%	①1年生全員対象で7月にSDGsをテーマにディスカッションを実施。1・2年生希望者対象の発展コースは、プレゼンテーション力を高めるより高度な内容であったが、満足度は100%。 ②国際交流センターと協賛して海外交流センターで協賛して英語検定対策プログラムを現在作成中。 ③留学生や他校生と協同で主体的に効率よく学ぶことができた。	A	継続	AA
	II. 豊かな感性を、たくましく生きるための健康と体力を	④健康・体力、協調性	継続	三部会(生徒・教員・自治会)が主体となった記念祭(文化祭・体育祭)の実施	三部会および記念祭各委員会の生徒構成員の延べ人数	308人	300人	②300人	記念祭関連で計11委員会を設け、それぞれに各クラスから1名参加。自治会参加者も運営に協力し、教職員と生徒で運営を行った。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合 (「分からない」を除く)	生徒98.7% 保護者94.3%	生徒・保護者95%	生徒97.9% 保護者96.8%	体育祭を6月、文化祭を9月に実施。外部入場はチアダンス制とし、コロナ禍以前にほぼ同様の状況で実施。また、生徒の意力により、後援費でファイヤーワークを4年ぶりに復活させた。	A	継続	AA																
																			⑤違いを認め共に生きる力、共感性、協調性	①高津キャラバン隊(ボランティア活動)(生活指導部) ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①32クラブ ②130名 ③27名	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ3団体	①全クラブが実施。 ②自治会、吹奏楽部、剣道部が東大阪支援学校に参加し、対面実施。 ③9/28に実施	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①100% ②100%	①95% ②95%	①100% ②100%	①生徒による社会体験・貢献活動(部活動参加によるキャラバン隊等)は全クラブが実施。 ②大津周辺地域の清掃活動や、地域と連携して高津市の夏祭り開催に協力する等を実施。 ③コロナ禍後復活2年目となり、より充実した内容で支援学校生徒と双方の交流を実施。	教員と生徒が互いにやる気高め合う相乗効果が生まれ、生徒・保護者とも満足度が高い取組みを継続できており、大変評価できる。また取組みについても、地域との連携、支援学校との連携など、多様な人々に会うことで豊かな感性の醸成に努めている。	AA		
	III. 高い志を高く、進路実現をめざす	⑥高い志	継続	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内(九州)サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①1945人 ②事前学習5回 各36人 ③オンライン交流会4回のべ132名 ④32名	①1,700人 ②40名	①1965名 ②高津前学習19名で2回実施。海外オンライン交流会3日でのべ89名参加。 ③37名	①1・2年生が、各自の興味関心をもとに参加。②海外オンライン交流会は、台湾2校、韓国2校、フィリピン1校と本校との6校で150名規模で計3回実施。 ③1/5～1/7実施。39名参加。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①96% ②100% ③100%	①95% ②95% ③100%	①96% ②100% ③100%	①生徒の興味関心を高め、視野拡大と共に、ハラダイムシフトの契機となる効果あり。 ②今年度ESS部を復活し、組織的に海外オンライン交流会を実施。9月に各クラスサイエンスプログラムで台湾、韓国、フィリピンの生徒を招き、対面での交流会を実施。 ③種子島のANA施設や鹿児島市の天後の島の歴史に感動した生徒が多く、満足度100%であった。	A	継続	AA																
																			⑦進路実現	①土曜講座(オンライン講座を含む)の実施 ②体験型進路学習(職場訪問、大学研究室訪問)の充実	①実施日数 ②職場、大学研究室の訪問先数	①1年20日 2年18日 3年20日 ②職場63カ所、研究室50カ所	①各学年18日以上 ②職場63カ所、研究室50カ所	①1年15回、2年17回、3年18回 ②職場63カ所 ③研究室51カ所	①1年生は原則全員参加。2・3年生は希望参加。年間計画を立て、組織的に実施。②1年職場訪問は、各学年に「働くとは」のテーマでプレゼンテーションを実施。2年研究室訪問はポスターセッションを実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①1年62% 2年74% 3年93%	①80% ②90%	①1年66% 2年75% 3年77% ②1年職場訪問満足度99% 2年研究室訪問95%	①土曜講座は年間スケジュールに基づき実施(感染症に係る中止あり)。②1年職場訪問「働くとは」のプレゼンは保護者にも公開し好評であった。2年研究室訪問は教授からの課題への回答を促し、教授とのディスカッションを通して「大学」を模擬体験できている。	A	継続	AA
	⑨進路指導力向上	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	15回実施 205人参加	15回 200人	15回210名	高津スクールマップに基づき、外部講師を活用しながら適切な時期に研修を実施。研修で得た情報を踏まえ、進路指導や授業・講習の改善を図っている。	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	91%	85%	95%	高津進路プログラム(KSP)に基づき、的確なタイミングで学年集会等を開催し、「進路実現とは?」を意識させている。生徒会や保護者委員会において複数の教員が掛け合う形で企画を実施。	A	継続	A																		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩教材開発、授業効果の向上	継続	①補助教材(オリジナル)の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	リーディングGIGAハイスクールアドバンスクラスのモデル校として、電子黒板機能付きプロジェクターはもとより、ICTをより活用した教材の工夫に取り組んでいる。 Google Classroomを有効活用し、効果的な課題配付や反復学習を実施。	A	①生徒授業アンケート質問5(教科書の他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている)に対する評価 ②生徒授業アンケート質問9(授業を受けて知識や技能が身に付いた)に対する評価	①3.45 ②3.40	①3.3 ②3.3	①3.53 ②3.43	LGHのモデル校として各教員が積極的にICTを活用。10/17にCTE(CTE)会発表会を用いた相互視察、相互採点等に際して公開授業を実施し、本校からの参加者あり。また、PT主催の教職員対象ICT研修会を12月までに計6回実施し、教員間のスキルアップを図った。	A	継続	AA																
																			⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	国際交流センターでの留学生との交流(GULS)	国際交流センターでの留学生との交流(GULS)	3校 40人	4校 35人	7校 42名	国際交流センターによる自治化が進み、本校以外にOIB(14名)住吉高、津谷、天守寺から各1名が参加。	A	参加満足度(4段階)	3.4	3.5	3.4	参加校、希望者数が増加。今後のあり方について、国際交流センターと定期的に検討会を実施中。(留学生の指導力の確保やチャットの拡大等)	A	継続	AA

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立高津高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は前年度実績を下回ったものの高い値を維持しており大いに評価できる。学力調査の結果における学力の伸長において2年から3年の低下幅は抑えられているが1年から2年の推移については要因を分析し改善に努めてもらいたい。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	89%	75%	85.5%	効果的なタイミングでの進路指導、土曜講習をはじめとする講習会等により、多くの生徒が国公立大学をはじめ自分の志望を貫き最後まで努力を続けている。	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の生徒の割合	14.1%	20%	16.3%	「高津進路プログラム（KSP）」に基づき指導してきた結果、目標には及ばなかったが、前年度実績を上回る結果となった。	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	83%	90%	82%	3年間を通してサイエンティフィックスキルを身につける体系的なプログラムが確立できている。また、1人1台端末を有効活用し、取組みの精度は確実に向上している。	A	継続	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合が8割を維持できていることは評価できる。課題研究で得られた成果を積極的に外部で発表したり、コンテスト等に参加できたりする仕組みを検討してもらいたい。	B	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	入選数	9本	10本	10本	GLHS合同発表会 大阪府教育委員会賞「食堂の注文予約のオンライン化による効果」、グローバルサイエンティストアワード”夢の翼”優秀賞2本等	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	1・2年生の英検のスコアレポート	CEFR B1:281人	CEFR B1:150人	CEFR B1:405人	英検2級以上を取得している生徒。（12月末時点）	A	継続	CEFR B1レベルの生徒数が前年度実績及び目標値を上回った。次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるように努めてもらいたい。	-	
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	101人	80人	93人	近畿圏を中心に全国の有力大学への進路を安定して実現できている。SGU 64人 GSC 95人	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学、難関国公立大学合格者及び国公立大学現役進学率は高い水準を維持できており大変評価できる。これらの要因を分析し、さらなる飛躍に期待する。	AAA	
		㉒進学実績	近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	78人	80人	74人	昨年よりマイナスおよび目標には届かなかったものの、京大では志願者の約40%が合格し、神大においては後期で7名が合格を勝ち取るなど粘り強く受験した。	A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	158人	130人	160人	国公立大学の合格者数が172名と過去最高であった。最後まで粘り強く頑張るという指導の下、55名が中後期で合格を勝ち取った。	A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1人	1人	1人	台湾国立大学	A	継続			
	総合評価			1年生における学習合宿の実施、2年生における課題研究活動、3年生による論文作成といった取組みが系統的かつ組織的に行われていることは高く評価できる。また、地域との連携や体系的な進路指導なども充実している。さらには、取組みの普及を積極的に行うなど、地域の拠点校としての役割を果たしている。また、スーパーグローバル大学（タイプA）の進学者数等において高い水準を維持するなど、非常に高い成果をあげた。							AA	

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立	継続	桃陰セミナーの実施及び部活動の促進（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数	22回	20回	20回実施	前期11回 後期11回	A	桃陰セミナー参加者の満足度 部学習のべ実施回数	満足度 92.1% 部学習 71回	桃陰セ ミナー満足 度 90%以上 部学習 60回以上	桃陰セ ミナー22回 部学習50 回	・桃陰セミナー参加者数 一日平均142人 ・部学習参加者数 のべ816名	A	継続	教科会において活発に議論している点が評価できる。オリジナル教材や天高模試の作成が学校の進学のコンセプトを支えており、特徴づけとなっている。一方で、外部のツールの効果的な活用については、今後検討する必要があるのではないかと考える。	AA
		②基礎学力の充実・確立	再編	天高スタンダード（各学年で達成する学力基準）の見直し	天高スタンダード達成目標の見直し及び自主教材の作成	自主教材作成及び改定と自主教材を用いた授業の実施	各教科より 良き改訂を めざす	①自主教材の作成と改訂 ②スタンダードに則った三観点評価方法の見直し	①国語、英語、化学、保健、創知I、創知II、ディベートの教材改訂 ②主体性の評価について教科運営委員会で検討	B	天高スタンダード到達目標の達成率	90.3%	90%以上	①100% ②100%	①予定されていた全教科・科目において自主教材の見直し・改訂を行った。 ②三観点評価については審査ごとに教科を超えての情報共有と見直しを行った。	A	継続		
		③英語運用能力	継続	校内留学プログラム「Road to GL」の実施	校内留学プログラム「Road to GL」参加者数	1年生61名	60名以上	1年生28名	新規の宿泊行事が同時期に実施されたこと、5日×5コマになり参加費が昨年比+2万円となったこと等により、参加者は減少。しかし、その分意識・意欲の高い生徒が研鑽する場となった。	B	「Road to GL」参加者の満足度	100%	90%以上	100%	25コマの研修を終えた生徒たちの満足度・自分は変わったという意味は高かった。高い要求に対峙した生徒達には、より高い志を育む機会となった。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会及び人権HRの実施	人権講演会及び人権HRの実施	9回	計画通りの実施	9回実施	1年：SNSと情報モラル／貧困／多文化共生 2年：社会の中の人権／ジェンダー／戦争 3年：国際社会／雇用／まとめ	A	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	96%	90%以上	96.8%	満足度平均	A	継続	多種多様な伝統行事により、天高のイズムや文化を受け継いでいっており、学習のみならず、感性や協調性を大いに育成しており、大変評価できる。	AA
		⑤健康と体力と協調性を育む	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会の実施	水泳大会中止 他の行事は臨機応変に実施	計画通りの実施	計画通り実施	水泳訓練(7月) 林間学校(7月) 水泳大会(8月)	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	95%	90%以上	94.3%	学校教育自己診断肯定評価平均値。 水泳訓練・林間学校・水泳大会ともにコロナ禍以前の形式で実施し、本校1年生の「天高生になる」という目標に大きな役割を果たすことができた。	A	継続			
		⑥日本古来の伝統に触れる（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	実施	計画通りの実施	計画通り実施	1年能楽鑑賞会(1月) 2年文楽鑑賞会(11月)	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	95.5%	90%以上	98.4%	能楽99.7% 文楽97%	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	学校遅刻者の指導	学校遅刻者総のべ人数	2062人	2000人以内	2459件	1年：446件 2年：867件 3年：1146件 ※起立性調節障害等の生徒の遅刻数を含んでいる	B	部活動への加入率	92%	90%以上	90.5%	延べ部活動加入率105% 運動部448名 文化部681名 延べ1129名/在籍1073名	A	継続	天高アカデミアをはじめとした育成プログラムは、生徒の高い志を育んでおり、大変評価できる。生徒の満足度だけでなく、プログラムを受けた生徒の興味関心の移り変わりや、研究内容、進路決定等にどのように影響しているのか、分析しながら、今後も充実した取組を期待したい。	AA
		⑧高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等の実施	京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会の実施 天高アカデミアの実施回数	天高アカデミア 16回実施	天高アカデミア 12回以上	15回実施	①環境DNA、②性染色体、③ゲノム編集、④医療DX、⑤傾聴、⑥理数教育、⑦道徳の芸術、⑧クリックケミストリー ⑨行動・進化・経済@ウクライナ ⑩AI@原子力@宇宙@医療@医薬物工学@3次元点群データ	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	97%	90%以上	全平均 96.2%	天高アカデミア：99% 京大研修会：96% 社会人講演会：92% 学部学科説明会：98%	A	継続		
		⑨海外研修等の実施	再編	海外研修(米)及び国内研修(福島の)の実施 海外セミナー(台湾)の実施 海外(豪・フィンランド)の学校との交流(オンライン含む)の実施	①海外研修及び国内研修の実施 ②海外セミナーの実施 ③海外の学校との交流(オンライン含む)の実施	国内(福島)研修及び台湾研修を実施 海外オンライン交流を実施	計画通りの実施	①海外・国内研修を実施 ②海外高校修学旅行生訪問受入れ ③海外姉妹校オンライン交流実施	①夏季海外研修はUCパークレー校でGLHS10校合同研修を再開。国内研修では前年同様の研修を福島県で実施。 ②インド・オーストラリア(姉妹校)フィンランドの生徒を受け入れた。 ③5月・11月実施	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	100%	90%以上	①100% ②100% ③90%	①参加者は問題意識を持ち自分を俯瞰するようになった。 ②より多くの生徒が海外生徒と交流でき、刺激を受けた。 ③機材の関係で交流が難しかった生徒がおり、満足度は他に比べ低い。海外とのオンライン交流には制約がある。	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究授業の実施/教員相互の授業見学実施	継続	研究授業の実施 他の教員の授業見学の授業公開週間の設定	①研究授業の実施回数 ②教員1人当たりの授業見学回数	①23回 ②6.5回	①20回 ②5回	①59回 ②9.8回	①11月10日には他校に公開 ②平均値	A	生徒授業アンケートによる全体平均(4点満点中)	第1回 3.5 第2回 3.56	3.50以上	3.56	第1回(7月)3.54 第2回(12月)3.57	A	継続	研究授業や他の教員の授業見学の実施回数が増加しており、成果をあげている。教員が多くなり替わる中で、教科指導をはじめ多様な研修により教員の指導力の向上に引き続き努めてもらいたい。	AA
		⑪教科指導研修会の実施	再編	外部講師による教科指導法向上の講座の実施	外部講師による教科指導法講座の参加人数	30名	30名	①夏のGLHS教員研修127名 ②オンライン講義2名	①127名(うち天王寺47名)；国26、社13、数30、化18、生8、英32 ②国1、数1	A	生徒による学校教育自己診断アンケート(授業や教材、教え方)の肯定的評価	95%	90%以上	93.4%	今年度は、初任者の2名がオンライン講義を受講。また各教科・科目の教員がGLHS教員研修に参加し、教科指導法向上に努めた。	A	継続		
		⑫新採用や経験の少ない教員対象の研修会の実施	継続	桃陰塾(首席等モデルリーダーを講師とした研修会)の実施	桃陰塾の実施回数	6回	10回	12回	首席・分掌等を講師として実施 全館(4月)/教務(4月)/伝統行事(5月)/GL・SSH(6月)/進路(6月)/林間下見(6月)/企画渉外(7月)/生徒指導(9月)/進路(11月・1月)	A	参加教員の満足度	100%	90%以上	100%	新担任の教員を対象に講義型・参加型で実施 満足度アンケートを最終回後に実施	A	継続		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①研究部会議への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける ③天高アカデミアへの参加を呼びかける	①研究部会議への参加生徒数 ②校内課題研究発表会への参加生徒数 ③天高アカデミアへの参加生徒数	合計4校 55名	合計5校 30名以上	①8校33名 ②2名 ③5名	①千里3、三島5、春日丘2、履屋川5、清水谷3、私学15 ②実施時期が他校日程が合わない ③5名	B	GLHS校以外の参加生徒の満足度	①100% ②100% ③100%	90%以上	①100% ②参加者0名 ③100%	実施後のアンケートによる	B	継続	校内研修における他校からの参加数に比べているように、他校への積極的な取組の普及活動が成果を出している。他校への発信が自校のプラスにつなげるという認識のものが取組を進めている点が評価できる。	AA	
	⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①校内教員研修会への参加を近隣校に呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける	①校内教員研修会への参加GLHS以外からの参加教員数 ②校内課題研究発表会への参加GLHS以外からの参加教員数	合計9校 16名	合計5校 15名以上	①16校24名 ②0名	①(5/23実施)12名：住吉4、千里2、泉北3、東1、富田林2 ②(11/10実施)12名：西野田工科、淀川清流、清水谷、北かわら幸ケ丘、布施、島本、大阪わかば、松原、八尾北、八尾支援、センター附属(各1名) ③実施時期が他校日程が合わない	A	GLHS校以外の参加教員満足度	①98% ②100%	90%以上	①100% ②参加者0名	実施後のアンケートによる	A	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は高い割合を維持できている。引き続き、高い水準で学力の向上に努めてもらいたい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	95% (336名/354名)	95%以上	96.0%	受験340名/在籍354名	A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト全国平均に対する得点率《3科目（国数英）平均》	135%	130%以上	136.7%	自己採点結果（900点満点） 本校平均470.7点/全国平均344.4点	A	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリック評価の導入	9分野すべての課題研究においてループリックを開発	改善及び校内研究発表における活用	すべての分野で実施	創知Ⅱ（課題研究）における8分野で作成。また、創知IT、創知IJにおけるパフォーマンス評価においても作成した。	B	継続	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数は減少しているものの受験者数は前年度実績、目標値を上回っており、大変評価できる。探究活動の充実がうかがえ、今後のさらなる飛躍を期待する。	AAA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の ①受験者数 ②入賞者数	①406名 ②26名	①350名 ②20名	①434名 ②7名	①物理11、化学135、生物88、数学63、地学28・地理46・数学63 ②生物オリンピック全国銅賞1・敢闘賞1、化学グランプリ全国1、地理オリンピック全国2、情報オリンピック1	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	TOEFL Junior 1・2年全員受験 CEFRB1以上到達者人数	CEFRB1以上 1年191名 2年296名	CEFRB1以上 400名以上	CEFR B1以上 489名	1年222名 2年267名	B	継続	CEFR B1レベルの生徒数が目標値を上回った。次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるように努めていただきたい。	-		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	151名	150名以上	162名	東京大学6名、京都大学48名、大阪大学45名など	A	継続	進学実績はすべての項目で目標値を上回り、高い水準が維持できている。引き続き、学習指導及び進路指導の充実を図っていただきたい。	AA		
		㉒進学実績	国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	31名	20名以上	25名	京都大学1名、大阪大学1名、神戸大学1名、大阪公立大学4名など	A	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	165名 (46.9%)	全体の45%以上	164名 (46.6%)		A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	2名	受験者を出す	3名	University college London University of Utah Knox College	A	継続				
	総合評価			「授業第一主義」を掲げ、オリジナル教材や模試を作成していることや、多種多様な行事の実施により、感性や協調性を育成していることは高く評価できる。また、教員を育成するシステムも構築されており、新転任の教員に対する年数回の指導や研究授業、授業見学等を行っていることも評価できる。また、大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合が高い水準を維持していることや、全国規模のコンクール・コンテストの受験者が増加するなど、高い成果をあげた。							AA		

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 1 府立生野高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-8

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価															
																		コメント	評価														
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	小項目「はぐくみたい」 ・言語活用能力 ・K1活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	1 自学自習時間を増やす取組 2 進学講習の実施	1 (1) 学習状況調査の実施 (2) 進路HRの実施回数 2 3年進学講習参加者数	1 (1) 2回以上実施 (2) 各学年5回以上	1 (1) 各学年 年2回実施 2 ・3年前期希望者講習 648名 ・3年後期希望者講習 750名 ・3年後期希望者講習 500名 ・3年夏期講習 1421名	2 ・3年前期希望者講習 925名 ・3年後期希望者講習 604名 ・3年夏期講習 1421名	1 (1) 各学年の自学自習時間 ・1年・2年の平日の自学自習時間1時間未満の割合	A	1 (1) ・各学年の自学自習時間 ・1年・2年の平日の自学自習時間1時間未満の割合	1 (1) 平日 ・1年前期 59分 後期 89分 ・2年前期 69分 後期 81分 ・3年前期 192分 後期 226分 休日 ・1年前期 174分 後期 106分 ・2年前期 138分 後期 130分 ・3年前期 247分 後期 279分 ・1時間未満(7月~11月) 1年 25% → 36% 2年 25% → 18%	1 (1) ・1・2年 90分 ・3年 180分 ・1時間未満 30%以下	1 (1) 7月実施 (2・3年) 4月実施 (1年)	平日 ・1年前期 103分 後期 72分 ・2年前期 72分 後期 89分 ・3年前期 169分 後期 232分 休日 ・1年前期 184分 後期 124分 ・2年前期 119分 後期 134分 ・3年前期 255分 後期 278分 1時間未満 1年 25% 2年 30 → 22%	B	継続	A	自学自習を増やすために、他校に積極的に訪問しノウハウ等を習得しようとして取り組んだことは評価でき、その学びを具現化して成果につなげてもらいたい。また、オーストラリア研修については理系に特化せず、文系にも短期できりはなれないのではないかと。														
																				②言語活用能力・K1活用能力	継続	プレゼンテーション能力の向上	・プレゼンテーション発表者数(校内・校外) ・ミラクルチャレンジや海外サイエンスツアーの研究発表	・校内 延べ720名 ・校外 延べ50名 ・中間発表会満足度 95%	・1・2年生は全員がプレゼンテーションを実施。	・校内発表 160名 ・中間発表満足度 85.2%	・アンケートによる生徒の評価 ・情報収集能力およびプレゼンテーション能力の向上	・12月末時点 ・校内 1・2年生全員 3年生3名 ・校外 延べ53名 中間発表満足度 91.8%	・12月末時点 ・校内 1・2年生全員 3年生10名 ・校外 50名 中間発表満足度90%以上	・校内 1・2年生全員、3年約30名 ・校外 160名 ・中間発表満足度 85.2%	B	継続	
																				③英語運用能力	継続	1 英検を利用した英語運用能力向上 2 海外語学研修の実施	1 運用能力をはかる目安として英検を活用し、計画的にその向上を図る。 2 海外語学研修参加者数	1 ・1年準2級以上取得率 4.6% ・2年2級以上取得率 21% 2 英語集中講座参加者 23名	1 ・2年新たに2級以上取得 100名 2 海外語学研修参加者 20名	1 2年英検2級取得率52.8% 2 オーストラリア語学研修 20名選者 ・校内短期留学 23名参加	1 ・2年英検2級以上取得率 52.8% 2 海外語学研修参加者満足度	A	1 ・2年英検2級以上取得率 52.8% 2 海外語学研修参加者満足度	1 ・2年2級以上取得率 52.8% 2 英語集中講座参加者満足度100%	1 ・2年2級以上取得率 50%以上 2 海外語学研修参加者満足度95%	右欄参照	1 英語検定2級以上取得率 52.8% 2 オーストラリア語学研修 満足度100% 校内短期留学 満足度100%
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力	継続	異文化理解教育の推進	・海外スタディツアー、サイエンスツアーの参加者数	・韓国泳業高校との交流 オンラインで11月放課後に3回実施。12月25日から3泊4日で韓国訪問。1月18日に泳業高校生が本校訪問。参加者数23名。 ・サイエンスツアー 12月24日から3泊4日で種子島宇宙開発センターと鹿児島で実施。参加者数14名	・韓国泳業高校とのサイエンス交流参加者数 20名。 (今年度は韓国でサイエンスツアー実施予定)	参加者24名	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	A	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	・韓国泳業高校との交流会 満足度100% ・サイエンスツアー満足度 100%	・90%以上	右欄参照	・韓国泳業高校との交流会(1月19日実施)満足度 97.8% ・サイエンスツアー(韓国)満足度 100%	A	継続																
	⑤共感性、協調性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	・自治会による部代表者会議及びリーダー講習会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 ・学校行事に進んで参加する生徒の割合 ・府大会以上の大会出場部数を恒常的に確保	・部代表者会議6回開催 ・リーダー講習会参加者満足度 100% ・体育祭満足度99.0%、文化祭満足度98.3%	・部代表者会議6回開催 ・リーダー講習会参加者満足度95% ・体育祭満足度92.8% ・文化祭満足度98.3%	・部代表者会議6回 ・リーダー講習会参加者満足度100% ・体育祭満足度92.8% ・文化祭満足度98.3%	・学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度) ・府大会以上の大会出場部数	B	・学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度) ・府大会以上の大会出場部数延べ20部以上	・生徒の満足度87% ・府大会以上出場18部、陸上部全国進出、写真部全部優勝	・学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度)80%以上 ・府大会以上の大会出場部数延べ20部以上	右欄参照	・生徒満足度86.7% ・写真部全国大会2連覇、写真部、書道部全国総合文化祭出場、陸上部インターハイ女子七種6位入賞、水泳部インターハイ出場 ・日本選手権女子三段跳び準優勝 ・府大会以上の大会出場部20以上	A	継続	韓国泳業高校(サイエンスツアー)との交流の生徒満足度が高く取組みの有効性が評価できる。一方で、遅刻や欠席の増加については、校内で議論し改善を図りたい。																
	⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組	・教員の協働による指導	・登校指導は年間4回実施 ・毎朝校門指導を実施	・登校指導年間4回実施 ・毎朝校門指導を実施	・登校指導を年間4回実施 ・毎朝、校門での指導を実施	・欠席者数、遅刻者数	A	・欠席者数、遅刻者数	・遅刻者数 1570回 ・欠席者数 5598回	・遅刻者数 延べ1500名以下 ・欠席者数 延べ4000名以下	右欄参照	遅刻回数 1661回 欠席者数 6823回	B	継続																	
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志を育む	充実	1 国公立大学へのキャンパスツアー 2 卒業生による講演会 3 リーダー講習会 4 振り返りの実施	1 キャンパスツアー参加者数 2 講演会の実施 3 講習会の参加者数 4 定期考査、学力テスト等で振り返りを実施	1 キャンパスツアー参加者 京大、阪大とも50名 ・2年生全員対象に阪大見学会実施 ・1年生全員が大学のオープンキャンパスに参加 2 文化祭で保護者、生徒向け講演会実施 3 リーダー講習会を実施 4 振り返りはすべての定期考査や学力テスト、模試で実施	1 キャンパスツアー参加者 京大、阪大とも50名 ・2年生全員対象に阪大見学会実施 ・1年生全員が大学のオープンキャンパスに参加(181名参加(50.3%))計151名 2 近隣の卒業生を5名招き、生徒対象に文系理系に分け、2日間実施。(9月13日、15日) 3 リーダー講習会39名参加 4 振り返りはすべての定期考査や学力テスト、模試で実施	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	B	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	1 キャンパスツアー参加者 京大、阪大とも 満足度：京大88%、阪大95% 2 卒業生講演会は未集計。 3 リーダー講習会の満足度 100% 4 振り返り 100%実施	1 キャンパスツアー参加者 京大、阪大とも 90%以上 2 卒業生講演会参加者満足度85% 3 リーダー講習会参加者満足度90% 4 振り返り 100%実施	右欄参照	1 キャンパスツアー参加者満足度：京大100%、阪大97% 2 9月13日と15日に実施。137名が参加。自身の進路選択に向け、参考になったとの声、多数。 3 リーダー講習会参加者満足度100% 4 振り返り 100%実施	A	継続	大学ツアーへの参加者が一部目標を下回っており、その要因等について分析したい。一方で、天王寺高校との合同学習会を実施するなど生徒同士の交流を通じて志を高め合う取組を工夫しており評価できる。																
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業力の向上	継続	1 校内における研究授業の実施 2 授業の相互参観	1 研究授業の実施回数 2 相互参観の教員参加率	1 各教科1回以上の実施 2 全教員による授業参観参加	1 計8回実施 2 見学週間 公開率100% 1回目50% 2回目70.3%	1 国語、数学、英語、社会、理科、体育で実施。 2 見学週間第一回 5月中旬～下旬に実施。 32名 見学週間第二回 10月末～11月に実施、45名	・授業評価による授業理解度	B	・授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年89.1%→88.6% 2年91.4%→92.5% 3年92.7%→92.8%	1年 85%以上 2年 90%以上 3年 90%以上	2年では目標を下回る。1年・3年では、目標達成。	第一回目→第二回目 1年：93.2%→92.4% 2年：88.7%→88.3% 3年：94.0%→95.5%	B	継続	積極的な他校視察により、教員の指導力向上を図った点は大変評価でき、是非視察により得たノウハウを校内で深めてもらいたい。その成果として特に1年段階での生徒の授業理解度がさらに向上することを期待する。															
	⑨授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	のべ28名参加 観22、他6	30名以上(教員数の約半分)	延べ56名	・駿台夏季研修10名 ・他校授業視察と研究協議 東京都立戸山高校6名 福岡県立修猷館高校8名 愛知県立昭和高校6名 高津高校26名	・授業評価による授業理解度	A	・授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年88.8%→91.1% 2年89.5%→91.1% 3年91.5%→94.6%	1年 85%以上 2年 90%以上 3年 90%以上	2年では目標を下回る。1年・3年では、目標達成。	第一回目→第二回目 1年：93.2%→92.4% 2年：88.7%→88.3% 3年：94.0%→95.5%	B	継続																
	⑩GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	探究Ⅱポスター発表、成果発表会への参加	探究Ⅱポスター発表、成果発表会への参加人数	・探究Ⅱポスター発表で佳吉高校を招待 ・高津高校で探究Ⅱ3名発表 ・近隣小中学校への出前授業6校 受講者数計166名	生徒発表招待(GLHS校以外)0名 出前授業6件 受講者数計224名	・近隣小中学校への出前授業6件 ・受講児童生徒数計224名	参加満足度(4段階)	B	参加満足度(4段階)	3.8	右欄参照	3.7	B	継続	小中学校への出前授業について積極的に取組み地域との連携がうかがえる。一方で、探究活動を通して、生徒・教員の交流をさらに活発にし、自校の取組みの充実につなげてもらいたい。																	
⑪GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	・探究Ⅱポスター発表と成果発表会、研究協議への参加 ・公開授業・研究協議への参加	・探究Ⅱポスター発表と成果発表会、研究協議への参加人数 ・公開授業・研究協議への参加人数	・公開授業 参加者15名 満足度100%、活用度92% ・理科初任者対象師範授業実施(物理)	・公開授業等への参加者 47名	・学校見学会参加3名 ・公開授業教員見学会7名 ・公開授業対象大学生40名 満足度100%、活用度100%	参加満足度(4段階)	B	参加満足度(4段階)	3.9	右欄参照	3.9	B	継続																			

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立生野高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査の結果における学力の伸長において1年から2年の推移には課題が残るものの、2年から3年の推移は改善がみられ評価できる。大学入学共通テストへの参加、結果について目標値を下回ったことについて校内全体で要因を分析し改善に努めてもらいたい。	A
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	83.0%	80%	77.6%	266/343=77.55%	C	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点が全国平均（900点満点）の110%以上の割合	52.1%	60%	48.0%	137/284=48.23% 文系56/100=56% 理系81/184=44.02%	C	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	アンケートによる生徒の評価（2年の発表を見た1年の満足度）	77%	情報収集能力およびプレゼンテーション能力向上したと感じる生徒の割合70%以上	85%		A	充実	コンクール・コンテスト等の成果において出品総数及び入賞件数が前年度実績を上回っており、全国規模の入賞もあり、大変評価できる。校内での探究活動の充実がうかがえる。今後も更なる飛躍を期待したい。	AAA	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	府レベル以上のコンテスト出品数と入賞件数	出品数（入賞数） 全国9件（0） 近畿0件 府24件（3）	全国3件（1件） 近畿5件（3件） 府30件（5件）	出品数（うち入賞数） 全国6件（3） 近畿20件（1） 府27件（4）	<ul style="list-style-type: none"> SSH全国生徒研究発表会 海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 近畿・中国ブロック 奨励賞 化学工学会全国学生発表会 優秀賞 京都大学ポスターセッション大阪代表 大阪府学生科学賞 教育委員会賞 大阪サイエンスステイ第2部銀賞受賞 「税についての作文」 八尾税務署管内租税教育推進協議会長賞 	B	継続			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	1 英検を利用した英語運用能力向上 2 海外研修の実施	1 ・2年2級以上取得率52.8% ・英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数23名 ・泳薫高校との国際交流参加者23名	1 ・2年2級以上取得率50% 2 ・オーストラリア語学研修参加者20名 ・泳薫高校との国際交流参加者20名以上	右欄参照	1 ・英検2級以上取得率52.8% 2. ・オーストラリア語学研修参加20名 ・泳薫高校との現地国際交流24名	A	再編	英語資格の取得について、目標値を上回ったことは評価できる。次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるように努めていただきたい。	-	
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	34名	50名	50名		A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が、前年度実績を上回り、目標値を達成したことは評価できる。一方で国公立大学現役進学者数が前年度実績及び目標値を下回っていることについて、分析のうえ改善に努めてもらいたい。	B	
		㉒進学実績	進路希望達成率	74%	75%	78%		A	充実			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	137名	150名	122名		C	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	0名		C	継続			
	総合評価			教員の授業向上に向け、他校視察、特に他府県の学校視察を積極的に行い、視察から学んだことを基に校内で議論する取組みを行ったことは高く評価できる。また、小中学校根への出前授業に精力的に取り組むなど、成果の普及にも意欲的に取り組んだことも評価できる。また、課題研究活動において、コンクール・コンテストへの出品総数及び入賞者数が増加し、全国規模コンテストにおいて入賞するなど、高い成果をあげた。							A	

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①基礎学力及び自学自習力の向上	継続	①三丘エクセレンス、三丘スタディーハートの充実 ②補充講習の実施（1・2年生）	・実施回数（実施教科） ・実施回数	・24回 201回 ・91回	・23回 200回以上 ・年間70回以上	・21回 95回 ・94回	・三丘エクセレンスは設定できる土曜の減少で3回減 ・三丘スタディーハートは今年度が最終年度。対象学年は3年生のみ。終了後は、各教科個別添削指導の充実と転換	A	・1, 2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合 ・補充講習への出席率	・1年 55.8% 2年 62.8% ・100%	・50%以上 ・100%	・1年 44.8% 2年 51.7% ・100%		B	継続	基礎学力の向上に向けた粘り強い取組みの結果、授業アンケートの結果が伸びて向上した点については評価できる。また、課題研究活動も成熟し、活動実績や生徒満足度の向上が見られ、さらなる活躍を期待したい。	A	
		②読解力リテラシー育成	継続	③読書指導の充実 ④文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導（1, 2年全員）	・5回 ・1年 14回 2年 7回提出	・年間5回以上	・5回 ・1年 7回 2年 6回提出	・読書記録提出による自主読書量	B	・読書記録提出による自主読書量	・1年 16作品 2年 13作品	・1, 2年 年間5作品以上	・1年 18作品 2年 11作品		A	継続			
		③科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育む	継続	⑤「課題研究(CSⅡ)」などの充実 ⑥プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究充実のための組織活動 ・校内外での発表会等でのプレゼン	・8回訪問 ・毎週開催 ・17回実施	・10回 ・CS委員会 毎週開催 ・延べ10回	・6回訪問 ・毎週開催 ・22回実施	・阪大工学部、同僚学部、同医学部を訪問（日程調整の不備で大医学部と工学部は訪問できず） ・SSH10回、SGH10回 ・中間発表と最終発表各1回	A	・「課題研究(CS探究)」の延べ発表回数 ・実施後のアンケートや感想	・160班 ・88.0%	・口頭及びポスター発表100回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・168班 ・92.5%	・中間発表59班 最終発表72班 SSH発表14班 SGH発表23班 ・調査は2月中旬実施予定		A			継続
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④英語運用能力の育成	継続	⑦4技能統合型授業の実施 ⑧英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・1, 2年 毎週実施 ・11回実施	・1, 2年 毎週実施 ・10回	・1, 2年 毎週実施 ・5回実施	・NASAツアー事前英語研修 23人×3回 SGH事前研修 30人×2回 ・オーストラリア研修代替のECC英検講習中止分減少	A	・学校教育自己診断結果や感想 ・各種4技能型英語外部テストの変換 ・特別レッスン参加者数	・80.0% ・545人 ・195人（一部未実施）	・肯定的意見80%以上 ・英検2級以上取得者150人以上 ・延べ70人	・83.8% ・641人 ・129人	・NASAツアー事前英語研修 23人×3回 SGH事前研修 30人×2回		A	継続	充実した学校独自の海外研修プログラムや英語特別レッスン等により、生徒の英語運用能力を確実に育成するよう取組を進めており、大変評価できる。また、学校説明会時に三国丘の生徒のありのままを中学生・保護者に見てもらおう機会を持つなど入学後のイメージを持つことができる工夫も評価できる。	A
		⑤違いを認め共に生きる力の育成（異文化・国際理解）	継続	⑨海外研修等の充実 ⑩海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・海外研修参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・89人 ・34人	・100人 ・70人	・77人 ・164人	・NASAツアー23人 フィリピン研修21人 GLHSツアー3名 オーストラリア研修30名 オーストラリア751人 韓国40人、台湾33人 留学生交流会40人	A	・アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	・肯定的評価100%	・肯定的評価90%以上	・肯定的評価100%		A	継続			
		⑥違いを認め共に生きる力の育成（ボランティア活動）	継続	⑪地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流の参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・中止 ・228人	・40人 ・100人	・80人 ・420人	・家族合衆団（子ども文化フェス）、天文部（星空教室）、クラシックギター部（老人ホーム訪問） ・学校説明会時に理化部、生物部、天文部が展示や体験を実施（中学生と保護者約420名が参加）	A	・アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見） ・アンケートや感想による参加者の評価（三国丘科学教室）	・中止 ・中止	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見80%以上 ・参加者の増加	・防災啓発訓練等に替えて、部活動の世代間交流を推進 ・三丘科学教室は名称を停止し、同趣旨の催しを学校説明会と併せて開催		A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦健康・体力・協調性と豊かな感性の育成	継続	⑫部活動の振興 ⑬学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事（文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会）実施	・96.5% ・体育祭 文化祭 無事故で実施	・95% ・内容充実	・98.0% ・体育祭 文化祭 無事故で実施	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出席件数 ・学校教育自己診断による生徒の評価	A	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出席件数 ・学校教育自己診断による生徒の評価	・12件 ・94.7%	・5件 ・肯定的評価90%	・11件 ・95.8%		A	継続	三丘セミナーなどの機会において、第一線で活躍する卒業生からの講話やロールモデルを示すこと等を通じて、生徒のキャリア選択や形成に資する取組を進めており評価できる。	AA	
		⑧高い志を育み進路実現を果たす	継続	⑭社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会の実施・充実 ⑮大学見学の実施 ⑯医療インターンシップの実施	・講座（講演）の参加人数 ・参加人数	・35回実施 ・東京方面 物理体感 学習として実施 ・223人 ・5人	・25回 ・450人 ・50人	・35回実施 ・244人 ・41人	・三丘セミナー12回 SSH7回、SGH6回 進路講演7回、防災1回 核事総長講演会1回 スポーツリーダーズセミナー1回 ・京大70人、阪大104人 公立大23人、海外47人 ・医師26人、看護15人	B	・難関国立大学(10大学)への進学者数 （東大京大阪大北大東北大 名大九大、神大、大） ・医学部医学科進学者数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・257人（現役192人） ・10人 ・肯定的評価100%	・150人以上（現役100人以上） ・10人以上 ・肯定的意見80%以上	・171人（現役131人） ・5人 ・肯定的評価100%	・東大1、京大16、阪大47、北大1、東北大1、名大5、九大3、神大21、大阪公立大76 ・秋田大1、大阪公立大2、和歌山県立医大1、University of Szeged 1		A			継続
		⑨規範意識の醸成	新規	⑰情報リテラシーの向上 ⑱朝のあいさつの奨励 ⑲リーダーズ研修の実施	・講演会の実施 ・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・1回 ・校門指導を日常的に実施 ・13回の実施	・1回 ・校門指導を日常的に実施 ・13回の実施	・1回 ・校門指導を日常的に実施 ・13回の実施	・スマホ講習会 ・キャプテン会議12回 ・スポーツリーダーズセミナー1回	A	・スマホ講習会に関するアンケートや感想による生徒の評価	—	・肯定的感想・意見が80%以上	・98.7%		A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上	継続	⑳授業改善に向けての取組 ㉑授業観察によるフィードバック ㉒保護者への授業公開 ㉓公開研究授業及び研究協議の実施 ㉔校外で実施される研究授業や研修	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間2回実施 ・年間1回実施 ・研修及び授業見学会実施回数 ・参加人数 ・参加人数	・全教員提出 ・全員フィードバック ・1回（10月実施） ・1回（他校から24名参加） ・教育センター→実施の研修に参加 ・他校や予備校等に19名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・1回（10月実施） ・2回実施 ・研修4回 ・他校や予備校等に20名参加	・全教員提出 ・授業観察実施済 ・1回（10月実施） ・年間2回実施 ・年間1回実施 ・研修4回 ・他校や予備校等に20名参加	・授業アンケートによる授業満足度	A	・授業アンケートによる授業満足度	・90.7%	・80%以上	・90.9%		A	継続	模擬試験後の研修や、新旧3年担任の進路指導研修など三国丘ならではの教員の指導力向上プログラムの成果が進路実績にも結びついており大変評価できる。引き続き指導力・組織力の向上に努めてもらいたい。	AA	
		⑪進路指導力向上	継続	㉕新旧3年担任を中心とした進路指導研修の実施 ㉖各学年業者模試実施後の研修実施 ㉗共通テスト分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・1回実施 ・9回実施 ・1回実施	・年間1回 ・年間5回 ・年間1回	・2回実施 ・10回実施 ・1回実施	・難関国立大学(10大学)への進学者数 （東大京大阪大北大東北大 名大九大、神大、大） ・大学医学部医学科進学者数	A	・難関国立大学(10大学)への進学者数 （東大京大阪大北大東北大 名大九大、神大、大） ・大学医学部医学科進学者数	・257人（現役192人） ・10人 ・10人以上	・150人以上（現役100人以上） ・10人以上	・171人（現役131人） ・5人	・東大1、京大16、阪大47、北大1、東北大1、名大5、九大3、神大21、大阪公立大76 ・秋田大1、大阪公立大2、和歌山県立医大1、University of Szeged 1		A			継続
		⑫初任者・転入者に対する指導力向上支援	継続	㉘校内研修の実施	・研修実施回数	・22回	・10回	・33回	・新着オリエンテーション1回、進路研修会10回、教員研修1回、進学フェア1回 ・両エリア合同説明会1回、三賞会2回 ・管理職による研修17回	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上（1回めと2回めの差）	・1.2%の向上	・授業アンケート 肯定的回答率1%以上の向上	・0.9%の向上		B	継続			
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	充実	㉙課題研究発表会の招待 ㉚課題研究、海外研修等本校の特色ある取組に関する説明会(中学生対象)	・課題研究発表会の招待回数 ・説明会の回数	・1回 ・1回	・年1回以上 ・年1回以上	・0回 ・2回	・学校説明会参加者数 2,400人 生徒プレゼンを主体とした学校説明会参加者数 600人	A	参加満足度（4段階）	・未実施 ・未実施	・3.5 ・3.5	・未実施 ・未実施	・学校独自のアンケート調査を実施。満足度98.3%		A	継続	他校の教員との交流を積極的に行うことで、課題研究の取組みの普及のみならず、自校の教員の指導力の向上につなげており、大変評価できる。	AA	
	⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	㉛研究発表会の公開 ㉜課題研究授業の公開 ㉝課題研究指導の研修、情報交換会の開催	・研究発表会公開の回数 ・課題研究授業の公開回数 ・課題研究指導の研修、情報交換会の回数	・1回 ・1回 ・3回	・年1回以上 ・年1回以上	・2回 ・1回 ・2回	・16人参加 ・教務研と兼ねて一般公開 ・12人参加 ・1回目12人、2回目14人	A	参加満足度（4段階）	・3.9	・3.5 ・3.5	・3.8	・9名の回答		A	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	①基礎学力及び自学自習力の向上	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は高い水準を維持できており大いに評価できる。学力調査の結果における学力の伸長については課題がみられるので、その要因を分析し改善に努めてもらいたい。	AA
		②読解力リテラシー育成	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	・89.5%	85%	・91%	312人中284人	A	継続				
		⑩大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	・23%	30%	・26.4%	284人中75人	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑮課題研究活動	校外での研究発表グループ数	・のべ31グループ	25グループ	・のべ37グループ		A	継続	校外での研究発表グループ数、府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数が増加したことは評価できる。次年度以降も引き続き積極的にチャレンジし、更なる飛躍を期待したい。	A		
		⑯コンクール・コンテスト等の成果	府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	・28人	20人	・34人	化学オリンピック1人、物理チャレンジ1人、高校生ビジネスプラン・グランプリ4人、SDGs Quest4人、ソーシャルイノベーションリレー4人、大阪大学賞4人、大阪サイエンスデイ15人、模擬裁判選手権1人	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英検2級以上取得者数	・545人	400人以上	・641人		A	継続	英検2級以上取得者数が前年度実績及び目標値を上回ったことは評価できる。次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるように努めていただきたい。	-		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	・109人	90人	・99人	北大1、東北大1、東大1、名大5、京大16、阪大47、神戸大21、広島大1、九大3、琉球大1、早稲田大1、慶応大1	A	継続	進学実績においてすべての項目で目標値を達成できたことは評価できる。一方で、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は前年度実績を下回った。その原因について分析のうえ改善を図り、更なる飛躍を期待したい。	A		
		㉒進学実績	難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、公大、医学部医学科）の全合格者数（現役・浪人）	・163人	120人	・166人	東大1、京大16、阪大47、神大21、大阪公立大76、医学部医学科5	A	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	・166人	140人	・164人	国立大95、公立大69	A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	・1人	1人	・1人		A	継続				
	総合評価			高い志の育成に向け、第一線で活躍する卒業生による講演会（三丘セミナー）を実施したり、教員の授業力の育成に向け、模擬試験後の研修や新旧3年担任による進学指導研修の優れた取組みを実施した。また、課題研究指導に関する研修会や情報交換会を積極的に行うなど、取組みの成果の普及に係る取組みも評価できる。また、大学共通テスト5教科7科目受験者の割合において高い水準を維持するなど、高い成果をあげた。							AA		

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①・学習習慣・学力向上 小項目「はぐくみたい力」 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力・読書力 ・読者のリテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	土曜講習（特進ゼミ）・サポート講習（成績不振者）等の実施	開講回数	367回	400回以上	337回	サポート講習の対象者を絞ったこと、働き方改革もあり土曜講習を精選したことなどにより、回数は大幅に減った。	C	（生徒向け）学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習に活用」の肯定的評価	49.0%	50%以上	51.4%	肯定的評価は51.4%であり、目標値は上回ったが、まだ低い値であるため、取組みの改善をすすめる。	B	再編	課題研究の取組みが生徒の意識変容につながっていない傾向にあるのは課題である。一方で、高い英語運用能力の習得に向けた生徒のニーズは高いため、これまでに取組みをきっかりにさらなる飛躍をめざしていただきたい。	B	
			継続	課題研究の充実	2年文理課題研究発表会の実施	オーラル75本、ポスター115本	オーラル70本、ポスター100本以上	オーラル69本、ポスター110本	9/8に中間発表会を開催し、110本のポスターを発表。1/27に最終発表会を開催し、オーラル69本、ポスター56本を発表。	B	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価	63.7%	65%以上	61.5%	肯定的評価は61.5%であり、前年度よりさらに値が下がってしまった。改めて課題研究の意義などを伝えていきたい。	C	継続			
			継続	グローバルリーダー養成プログラム国内版の実施	参加者数	90名	80名以上	92名	8/7～8/10の4日間、英語漬けの研修を実施。80名の募集に対し92名の生徒が参加。	A	受講者へのアンケートにおける肯定的評価	9.5%	9.5%以上	99.9%	プログラム全体への満足度は99.9%（英語力への成長を実感100%、プログラム参加による変容98%）であった。	A	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④・共感性・協調性・健康・体力 小項目「はぐくみたい力」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	①部活動の活性化 ②地域課題をテーマとした研修の実施	①クラブ加入率 ②実施回数	①85.0% ②2回	①80%以上 ②1回以上	①87.0% ②2回	①クラブ加入者数は829名（4月時点）となり、大きく増えた。 ②10/10に「折れない心をつくるメンタルの鍛え方」、2/26に「トレーニング理論と方法論」と題した研修を実施。	A	（生徒向け）学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価	93.1%	90%以上	92.8%	肯定的評価は92.8%であり、目標値は上回った。	B	継続	部活動の加入率の増加や地域と連携した取組みを行うことで、体力とともに感性や協調性を育成されている。課題研究活動等、地域との連携から問いを深めていく方向性を期待したい。	A	
			継続	①岸城幼稚園との交流 ②地域の課題をテーマとした課題研究	①実施回数 ②地域の公的機関やNPO等との連携した取組み	①2回 ②2カ所	①2回 ②2カ所以上	①2回 ②2カ所	①2年生が6月と11月に家庭科の授業で園内と交流。 ②Kep（一般社団法人岸和シテェプロモーション推進協議会）岸城町と連携し、課題研究に取り組んだ。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②地域の課題をテーマとした研究本数（2年生文理課題研究）	①9.5% ②5本	①90%以上 ②5本以上	①9.5% ②5本	①②ともに昨年度と変わった。目標値は上回った。	B	継続			
			継続	①全教員による「通学指導週間」の設定 ②生徒による朝の挨拶運動の実施	①実施回数 ②実施回数	①3回 ②19回	①3回（各学期1回） ②20回以上	①2回 ②10回	①1学期は5/9～5/13、2学期は10/25～10/27に実施。3学期は生活指導部が通学指導を実施。 ②朝読書の時間短縮の影響もあり、回数は大幅に減った。	C	（生徒向け）学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価	81.4%	80%以上	84.7%	肯定的評価は84.7%であり、前年度の値を大きく上回った。	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦・将来像の構想・興味・関心の高揚 小項目「はぐくみたい力」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	①卒業生による職業講話の実施 ②大学教授等の外部講師による出前講義	①実施回数 ②実施回数	①1回 ②3回	①1回 ②3回以上	①1回 ②5回	①10/14に本校卒業生9名を講師とした「OB・OG講演会」を実施。 ②5/26にSD講演会、8/29に大学出張講義（講師15名）、9/2に村尾監を実施。また、12/19、2/8にSSH講演会を実施。	A	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①9.5% ②8.9%	90%以上	①9.5% ②9.0%	①②ともに、自由記述でもほとんどが肯定的であった。	B	継続	卒業生や大学教授による講話は、生徒の夢に響くという点で重要。そのため、内容等について常に振り返りを行いながら充実を図ってほしい。ハイレベル講習については、実施時期等については課題はあるものの、生徒にとって非常に有意義なものになっており、継続して取り組んでほしい。	A	
			継続	①東京方面大学キャンパスツアーの実施 ②SSHサイエンスツアーの実施	①参加生徒数 ②参加生徒数	①9名 ②28名	①7名以上 ②20名以上	①5名 ②24名	①8/3から1泊2日で5名の生徒が東大、早稲田、慶応を訪問。 ②7/27から2泊3日の「生物フィールドワーク」にも参加。8/2から2泊3日の「東京方面サイエンスツアー」には19名の生徒が参加。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①100% ②100%	95%以上	①100% ②100%	①②ともに、参加者全員がとも満足している。満足しているなど、肯定的に評価している。	B	継続			
			継続	①「岸高ハイレベル講習」の実施 ②「岸高スーパークラス」の設置	①実施回数 ②生徒数	①18回 ②80名	①18回 ②80名	①14回 ②80名	①80名の募集に対し86名が希望し、全員を対象に実施。行事等の関係で土曜日を確保できず実施日数減。 ②文系64名、理系79名の応募があり、その中から文理それぞれ40名を選抜。	C	①生徒アンケート「受講してよかった」「実力があった」の肯定的評価 ②生徒アンケート「クラスに入ってよかった」「実力があった」の肯定的評価	①89.6% ②88.1% ③93.0% ④82.5%	「受講してよかった」85%以上、「実力があった」80%以上	①95.4% ②87.9% ③95.7% ④98.5%	①②ともに前年度の値を大きく上回った。	A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩1人1台端末の活用 小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	新規	1人1台端末の活用を推進する校内研修等の実施	実施回数	2回	2回以上（オンデマンド・事例集作成を含む）	2回	リーディングGIGAハイスクールとして、1人1台端末の効果的な活用をテーマとした校内研修を実施。また、授業実践事例集を作成する。	B	（生徒向け）学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価	89.0%	90%以上	90.3%	肯定的評価は90.3%であり、目標値は上回った。	B	継続	授業力向上研修や初任者等への研修を通して教員の指導力の向上に努めた。内容・満足度とも概ね目標を達成しており、評価できる。今後とも、その効果について分析しながら、さらなる取組みの充実を期待したい。	A	
			継続	①授業力向上に向けた組織的な取組み	①研究授業を含めた授業力向上研修の実施 ②公開授業週間の設定	①実施回数 ②実施期間	①1回 ②各教科2週間以上	①1回 ②各教科2週間以上	①1回 ②各教科3週間×2回	①11/24（金）に京都大学石井准教授を招き、授業力向上研修を実施。 ②全教科を対象とした公開授業週間は8/28からの3週間、11/6からの3週間に設定。	A	授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持てることができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価	3.30	3.25以上	3.34	授業アンケートの項目8・9の肯定的評価について、実施した2回の平均は3.34であり、前年度の値を大きく上回った。	A			継続
			継続	初任者と10年経験者の教員合同での校内研修の実施	実施回数	10回	11回以上	11回	校長、教頭、事務長、養護教諭等からの講話のほか、初任者として10年経験者が交流する取組みなど、全11回の研修を実施。	B	参加教員へのアンケート「本研修で知識は広がりましたか」の肯定的評価	100%	100%	100%	年間11回行ったが、教科を超えて、初任者と10年経験者が交流するよい機会となった。特に、初任者にとっては、学びの多い研修となった。	B	継続			
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①課題研究発表会への他校生徒の参加 ②その他、他校との交流を実施	①課題研究発表会に参加した学校数及び生徒数 ②その他、他校との交流回数	①2校6名 ②3回	①2校6名 ②2回	①高校3校8名、小学生4名 ②2回	①1/27開催の文理課題研究最終発表会に、小学生を含め、他校生徒を招待。 ②本校最終発表会に加えて、2/8東高校の発表会に参加（住吉高校へは学年閉鎖のため参加できず）。	B	①参加生徒へのアンケート「参加してよかった」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	課題研究発表会に参加した生徒からは肯定的評価を得ることができた。	B	継続	探究に関する意見交換会の開催により地域拠点の取組みを行っており評価できる。他校の発表会にも参加しており、様々な舞台での発表により、引き続き課題研究の取組みの深化を図っていただきたい。	A	
			継続	教員研修等の実施	教員研修等への参加学校数及び教員数	8校8名	5校8名以上	7校9名	7/10に本校主催の「総合的な探究の時間」意見交換会を本校にて開催。本校が行った課題研究などの取組みを他校に共有するとともに、学校間の交流を図るもの。当日は他校から7校9名の教員が参加。	B	参加教員へのアンケート「内容は満足のいくものでしたか」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	アンケート結果は回答者全員が4段階評価の「4」であり、全員が肯定的な評価であった。	B	継続			

令和5年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立岸和田高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								学力調査の結果における学力の伸長において改善がみられ評価できるが、引き続き改善を続け、より高い水準をめざしてほしい。大学入学共通テストへの参加、結果ともに前年度実績を上回っており評価できる。	A
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	215名 68.2%	224名 70%以上	241名 77.0%	5教科7科目受験者について、文系88名、理系153名で合計241名であり、前年度より大きく増えた。	A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目の 全国平均×1.2以上得点した受験者の割合	27.8% 文系35.2% 理系23.5%	40%以上	文系 35.2% 理系 23.5%	文系は全国平均536点の1.2倍643点を 超えた生徒は31名/88名で35.2%。 理系は全国平均556点の1.2倍667点を 超えた生徒は36名/153名で23.5%。	C	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学校教育自己診断「岸和田高校は、 課題研究をはじめとする探究的な学 習や、関連行事など特色ある教育活 動が行われている。」の肯定的評価	92.7%	93.0%以上	94.3%	肯定的評価は94.3%であり、目標 値を大きく上回った。	A	継続	課題研究活動について目標値及び前 年度を上回る実績をあげ、大いに評 価できる。特に理科系のコンク ール・コンテストにおいて高い実績を 残した。高い実績を上げた研究を ロールモデルとして下級生に継承し ていくなど、さらなる飛躍を期待し たい。	AA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成 果	コンクール・コンテスト等（国際科 学技術コンテスト、SSH生徒研究発 表会、高校生国際シンポジウム、大 阪府学生科学賞、大阪府生徒研究発 表会等）の参加者人数	49名	50名以上	のべ60名	・国際科学技術コンテスト22名 ・SSH生徒研究発表会1名 ・大阪府学生科学賞5名 ・大阪府生徒研究発表会第2部8名 ・坊っちゃん論文科学賞4名 ほか	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験（G-TEC,英検） の目標達成割合	・A2以上 98.9% ・準2級 100%、2 級74.5%	・A2以上 95%以上 ・準2級95% 以上、2級 70%以上合格	・— ・準2級 50%、2級 62.2%	・G-TECについては今年度受験してい ない。 ・英検（希望者）は、準1級を24名中 5名、2級を74名中46名、準2級を8 名中4名が合格した。	C		英検の合格者数は目標を達成できな かった。この原因を分析いただき、 次年度以降生徒がより高いレベルの 英語運用能力を身に付けられるよう に努めてもらいたい。	-		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプ Aトップ型）およびグローバルサイ エンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプA トップ型）およびグローバルサイ エンスキャンパスへの進学者数（1浪 含む）	30名	30名以上	41名	筑波大1名、東京大1名、京都大2 名、大阪大19名、神戸大11名、名 古屋大1名、広島大4名、早稲田大 2名	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプA トップ型）およびグローバルサイ エンスキャンパスへの進学者数及び国 公立大学現役進学者数が前年度実 績、目標値を上回っており大いに評 価できる。次年度以降更なる飛躍を 期待したい。	AA		
		㉒進学実績	国公立大学&主要私大（早稲田・慶 応・上智・東京理科大・MARCH・ 関関同立・同女・薬学部・歯学部・ 医学部）現役進学者数	234名	230名以上	215名	下記の国公立大学に加え、私立大学 では早稲田大2名、青山学院・中 央・法政・明治各1名、同志社大 15名、立命館大8名、関西大23 名、関西学院大13名など	C	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	127名	130名以上	138名	筑波大1名、東京大1名、京都大2 名、大阪大16名、神戸大10名、大 阪教育大5名、奈良女子大2名、和 歌山大28名、大阪公立大38名、和 歌山県立医大6名など	A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名以上	0名		C	継続				
	総合評価			岸和田シティプロモーション推進協議会と連携した地域課題をテーマとした課題研究の実施や、ハイレベル講習の実施等の取組みについては、高く評価できる。また、授業力向上研修や全教科を対象とした公開授業についても、充実した取組みを行っている。また、課題研究において全国規模のコンクールにおける入賞するとともに、進学実績においてスーパーグローバル大学（タイプA）等への進学者数が前年度実績を上回るなど、成果をあげた。							A		